

令和元年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の

点検・評価報告書

笠岡市教育委員会

目 次

I	教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について	1
II	笠岡市教育行政における事務の管理及び執行状況の点検・評価項目	3
1	教育委員会の運営状況	5
2	教育委員会が管理・執行する事務	15
3	教育行政基本方針・基本施策	17
(1)	「学び」「育ち」をつなぎ、自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進	17
	基本施策	
○	自立した子どもの育成	17
○	共生の心の育成	23
○	郷土愛の育成	31
○	小中一貫教育及び学校規模適正化の実施	33
○	学校施設等の整備	35
(2)	市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進	39
	基本施策	
○	いつでも、どこでも、学びたいときに学ぶことができる機会の提供	39
○	学習成果を活かしたまちづくり	43
○	家庭・地域・学校と一体となった地域ぐるみの教育支援	46
○	社会教育に取り組む市民や団体との協働と支援	50
(3)	幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成	52
	基本施策	
○	文化財の保護・活用	52
○	竹喬美術館の活性化と館蔵品の充実	55
○	芸術文化活動の振興・交流と担い手の育成	59
○	カブトガニの保護とカブトガニ博物館の運営	63
(4)	いつでも、どこでも、誰でも気軽に親しめる生涯スポーツの振興	66
	基本施策	
○	生涯スポーツの推進	66
○	競技スポーツの推進	70
○	スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と活用	75
III	評価委員の総合評価	76
IV	資料	81

I 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について

1 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育委員会が点検・評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表することが義務づけられています。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検・評価の対象及び方法等

(1) 対象

- ① 教育委員会が管理・執行する事務
- ② 第7次笠岡市総合計画（前期基本計画 平成30～令和3年度）に掲げた「学校教育の充実」、「生涯学習の推進」、「スポーツの振興」及び「歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用」の取組のうち主なもの
- ③ 「笠岡市教育振興基本計画」に掲げた主要施策の事務・事業のうち主なもの

(2) 方法

令和元年度における達成状況の把握を参考としながら、その取組状況について点検・評価を実施します。

- ① 基本施策
管理執行する事務及び教育振興基本計画に掲げた主要施策を記載
- ② 目標
点検・評価項目が目指す目標、その必要性や意図・ねらいなどを記載
- ③ 重点事業・事務事業
基本施策における重点事業・事務事業の概要及び目標を達成するための具体的な取組状況を記載
- ④ 成果
実施した事務事業及び施策の成果について、具体的に記載
- ⑤ 課題・方向性
今後の課題・改善点及び方向性等について記載
- ⑥ 自己評価
目標に対する達成度や効果等について、評価を記載

<評価指標>

- A：予定どおり目標が達成された。
- B：概ね達成された。
- C：やや目標に達成できなかった。
- D：達成できなかった。努力を要する。

(3) 学識経験者による知見の活用

点検・評価に当たっては、地教行法第26条第2項の規定により教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされたため、笠岡市教育委員会評価委員から意見を聴取しました。

< 笠岡市教育委員会評価委員 >

丹 生 裕 一	就実大学教育学部長
廣 井 滋 季	元笠岡市教育委員
樋之津 秀 治	元笠岡市立中学校長

(4) 報 告

当年度分の報告を議会（総務文教委員会協議会）で行います。

(5) 公 表

ホームページ及び教育委員会事務局等での閲覧ができます。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 笠岡市教育行政における事務の管理及び執行状況の点検・評価項目

1 教育委員会の運営状況

- (1) 教育委員会の会議の運営
教育委員会定例会及び臨時会の開催
- (2) 教育委員会の活動
総合教育会議への出席
- (3) 教育委員の研修等
研修会，その他各種行事・会議への出席
- (4) 学校及び教育施設への支援
教育委員による学校・教育施設訪問
教育委員と教職員の懇談会
教育委員による学校給食訪問

2 教育委員会が管理・執行する事務

- (1) 教育行政の運営に関する基本方針
令和元年度「笠岡市教育行政実施計画」を策定
- (2) 規則等の改廃
規則，要綱，規程等の制定・改正等
- (3) 議会の議決を経るべき議案
条例等の議案を審議
- (4) 教育関係予算
教育行政に関する予算を審議
- (5) 教育委員会の所管に属する学校，その他の教育機関の設置又は廃止
設置又は廃止を審議
- (6) 職員の任免に関する事
教育委員会事務局職員の人事異動，小・中学校長等の人事異動の内申について審議
- (7) 教科用図書の採択の決定に関する事
教科用図書の採択
- (8) 法令等で定められた諮問機関の委員の委嘱
諮問機関の委員の委嘱
- (9) 市重要文化財の指定及び解除
市重要文化財の指定及び解除を審議
- (10) 教育委員会の点検評価報告書の作成
教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価を実施し，報告書の作成，議会へ報告，公表

3 教育行政施策体系

基本理念	施策項目 (総合計画)	基本方針	基本施策
学ぶ楽しさ 輝く個性 生き抜く力	学校教育の 充実	「学び」「育ち」をつ なぎ自立して共に生 きる子どもを育てる 学校教育の推進	1 自立した子どもの育成
			2 共生の心の育成
			3 郷土愛の育成
			4 小中一貫教育及び学校規模適正化の実施
			5 学校施設等の整備
	生涯学習の 推進	市民一人ひとりの豊 かな学びにより地域 力を高める生涯学習 の推進	6 いつでも、どこでも、学びたいときに学ぶことができ る機会の提供
			7 学習成果を活かしたまちづくり
			8 家庭・地域・学校と一体となった地域ぐるみの教育支 援
	歴史の承 継・文化の 振興・カブ トガニの保 護と活用	幅広い世代が楽しめ る文化・芸術の振興 と担い手の育成	9 社会教育に取り組む市民や団体との協働と支援
			10 文化財の保護・活用
			11 竹喬美術館の活性化と館蔵品の充実
			12 芸術文化活動の振興・交流と担い手の育成
	スポーツの 振興	いつでも、どこでも、 誰でも気軽に親しめ る生涯スポーツの振 興	13 カブトガニの保護とカブトガニ博物館の運営
			14 生涯スポーツの推進
			15 競技スポーツの推進
			16 スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と活用

1 教育委員会の運営状況

教育長

(R2. 3. 31 現在)

職 名	氏 名	就任年月日	任 期
教 育 長	岡 田 達 也	H29. 8. 1	H30. 4. 1～R 3. 3. 31

教育委員

(R2. 3. 31 現在)

職 名	氏 名	就任年月日	任 期
教育長職務代理者	三 谷 信 恵	H20.10. 1	H28.10. 1～R 2. 9. 30
委 員	石 井 啓 弼	H27.12.11	R 1.12.11～R 5.12.10
委 員	藤 谷 幸 弘	H28.12.17	H28.12.17～R 2.12.16
委 員	山 下 敬 広	H29.10. 4	H29.10. 4～R 3.10. 3

(1) 教育委員会の会議の運営

教育委員会定例会 12回(前年12回)

教育委員会臨時会 3回(前年2回)

月 日	定例会又は臨時会	議 案	報 告	協議報告・その他
4月25日	定例会	1		10
5月23日	定例会	3		5
6月20日	定例会	3	1	9
7月10日	臨時会			1
7月25日	定例会	3	2	7
8月22日	定例会	4	1	4
9月19日	定例会	5		10
10月10日	臨時会			1
10月24日	定例会	2		10
11月21日	定例会	1		10
12月19日	定例会	1		8
1月23日	定例会	1	2	10
2月20日	定例会	6		8
3月13日	臨時会	4		
3月19日	定例会	5		3
計	15回	39	6	96

会議については、定例会を毎月1回、年12回開催、臨時会は、必要に応じて3回開催し、計15回開催した。

会議の開催に際しては、議案資料の内容を事前に確認し、会の円滑な進行に努めた。

会議の公開等，開かれた委員会として保護者や地域住民に情報発信し，地域に求められる活動を進めている。なお，定例会での協議のほかには教育長を含む教育委員全員で，今日的・緊急的課題について，非公式協議や意見交換を随時行っている。

① 教育委員会議案・報告案件

月 日	議 案 ・ 報 告 案 件
4月25日	① 公民館運営審議会委員の委嘱について
5月23日	① 公民館運営審議会委員の委嘱について ② 社会教育委員の委嘱について ③ 笠岡市学校給食センター運営委員会委員の委嘱及び任命について
6月20日	① 笠岡市立学校管理規則の一部を改正する規則について ② 笠岡市図書館協議会委員の委嘱について ③ 感謝状の贈呈について ④ 教育長の専決処分した笠岡市立カブトガニ博物館運営委員会委員の委嘱について
7月25日	① 笠岡市立中学校部活動指導員の任用等に関する要綱について ② 笠岡市学校給食センター設置条例施行規則の一部を改正する規則について ③ 令和2年度使用教科用図書（小学校）の採択について ④ 教育長の専決処分した笠岡市立竹喬美術館協議会委員の委嘱について ⑤ 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について
8月22日	① 教育長の兼業について ② 笠岡東公民館館長の任命について ③ 笠岡市教育振興基本計画について ④ 笠岡市小中一貫教育推進計画の基本方針（案）について ⑤ 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について
9月19日	① 笠岡市幼稚園保育料の減免取扱規則の廃止について ② 笠岡市幼稚園就園奨励事業実施要綱等の廃止について ③ 笠岡市立幼稚園副食費助成要綱の制定について ④ 感謝状の贈呈について ⑤ 公民館運営審議会委員の委嘱について
10月24日	① 笠岡市立幼稚園副食費助成要綱の全部を改正する要綱について ② 笠岡市実費徴収に係る補足給付事業実施要綱の制定について
11月21日	① 笠岡東公民館運営審議会委員の委嘱について

12月19日	① 笠岡市立幼稚園一時預かり保育事業実施要綱の一部を改正する要綱について
1月23日	① 公民館運営審議会委員の委嘱について ② 教育長の専決処分した地区公民館主事の任命について ③ 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について
2月20日	① 笠岡市立学校管理規則の一部を改正する規則について ② 笠岡市立幼稚園園則の一部を改正する規則について ③ 笠岡市立中学校部活動指導員の任用等に関する要綱の一部を改正する要綱について ④ 笠岡市地区公民館長の任用等に関する要綱の制定について ⑤ 笠岡市立学校職員服務規程の一部を改正する規程について ⑥ 笠岡市社会教育委員の委嘱について
3月13日	① 小・中学校長等の人事異動の内申について ② 幼稚園長等の人事異動について ③ 感謝状の贈呈について ④ 教育委員会事務局職員の人事異動について
3月19日	① 笠岡市立中学校生徒自転車通学ヘルメット購入費補助金交付要綱の一部を改正する要綱について ② 笠岡市地域学校協働活動推進員設置要綱の制定について ③ 真鍋島公民館長の任命について ④ 笠岡市立小・中学校の学校規模適正化計画書の改訂について

② 教育委員会協議報告・その他事項

月 日	協 議 報 告 事 項
4月25日	① 平成31年度校長・教頭・養護・事務一覧について ② 平成31年度幼小中在籍数について ③ 平成31年度笠岡市教育委員会・笠岡市教育研修所等研究指定校園について ④ 「井戸平左衛門賞」副賞に係る大田市1泊2日の交流事業について ⑤ 笠岡市歴史文化基本構想の策定について ⑥ 第38回笠岡市子どもフェスティバルの開催について ⑦ カブトガニ保護啓発運動の開催について ⑧ 第2次笠岡市文化スポーツ推進基本計画の策定について ⑨ 比庵さんが目指した万葉の世界 ⑩ 日本遺産について

5月23日	<ul style="list-style-type: none"> ① 小中一貫教育の推進について ② 笠岡市木山捷平文学選奨の作品募集について ③ 笠岡市体育協会の名称変更について ④ 日本遺産について ⑤ 令和2年度使用教科用図書（小学校）について
6月20日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和元年6月笠岡市議会定例会質問・回答について ② 令和元年度一般会計6月補正予算（教育関係）について ③ 学校等教育施設訪問について ④ 小中一貫教育の推進について ⑤ 講演会『郷土の隠れた偉人・関藤藤陰～幕末の闘う儒学者～』について ⑥ 特別展「生誕130年記念 小野竹喬のすべて」について ⑦ 特別展「川のいきもの展@笠岡」について ⑧ オリンピックに係る聖火リレーランナーの募集について ⑨ 教育施設に隣接する消防機庫の建替について
7月10日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和2年度使用教科用図書（小学校）の決定について
7月25日	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校等教育施設訪問結果について ② 令和元年度岡山県学力学習状況調査について ③ 小中一貫教育の推進について ④ 「笠岡へもっと愛着を持ち隊 新たなる旅立ち」について ⑤ 笠岡市教育振興基本計画（案）について ⑥ 給食費（幼稚園）の改定について ⑦ 貫閲講堂について
8月22日	<ul style="list-style-type: none"> ① 平成31年度全国学力学習状況調査について ② 平成30年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書（案）について ③ 笠岡小学校ブロック塀改修工事について ④ 北木島宿泊研修所及び井原鉄道記念館の指定管理について
9月19日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和元年度一般会計9月補正予算（教育関係）について ② 令和元年9月定例会市議会定例会質問・回答について ③ 笠岡市教育振興基本計画について ④ 令和元年度笠岡市教育便覧について ⑤ 笠岡市指定天然記念物「井立のネズの木」き損と保存処置について ⑥ 笠岡運動公園（スポーツ施設）のリニューアルについて ⑦ 小中一貫教育及び学校規模適正化の説明会について ⑧ 指定学校の変更について ⑨ 北川公民館駐車場について

	⑩ 10月22日（即位礼正殿の儀）市内文化施設の無料開放について
10月10日	① 小学校教諭の不祥事について
10月24日	① 学校等教育施設訪問について ② 教育委員の先進地視察について ③ 令和元年度市内小・中学校「いきいきオープンスクール」の開催日時について ④ 小中一貫教育推進計画（素案）及び学校規模適正化説明会について ⑤ 第15回笠岡市青少年スピーチコンテストについて ⑥ 第42回笠岡市青少年健全育成大会について ⑦ 第67回笠岡市文化祭・第42回笠岡市芸能祭・第44回笠岡市菊花展について ⑧ 森田思軒顕彰講演会について ⑨ 郷土館企画展「稲富稲荷神社拝殿建立200年」について ⑩ 令和元年度教育行政実施計画～重点施策～について
11月21日	① 学校等教育施設訪問結果について ② 令和元年度いきいきオープンスクール参加者数等結果概要について ③ 平成30年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について ④ 島しょ部入学特別制度「わくわくシーサイドスクール」について ⑤ 小中一貫教育推進計画（素案）パブリックコメントについて ⑥ 学校規模適正化計画説明会の開催状況について ⑦ 第15回笠岡市木山捷平文学選奨作品募集結果について ⑧ 笠岡市体育施設条例の一部を改正する条例について ⑨ 平成30年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書について ⑩ 貫閲講堂について
12月19日	① 令和元年度一般会計12月補正予算（教育関係）について ② 令和元年12月笠岡市議会定例会質問・回答について ③ 小中一貫教育推進計画（素案）及び学校規模適正化計画説明会について ④ 令和元年度笠岡市成人式の開催について ⑤ 特別陳列「女を描くー美醜を超えてー」について ⑥ 第23回べいふあーむ笠岡マラソン大会参加者募集について ⑦ 令和元年度教育行政実施計画～重点施策～について ⑧ 北木島宿泊研修所及び新山井笠鉄道記念館の指定管理について

1月23日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和元年度卒業式及び令和元年度始業式等の日程について ② 令和2年度幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒数の見込みについて ③ 令和元年度笠岡市学校給食展について ④ 第33回笠岡市人権文化祭について ⑤ 令和元年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果について ⑥ 日本遺産申請について ⑦ 令和元年度笠岡市成人式の開催結果について ⑧ 第31回笠岡市生涯学習フェスティバルの開催について ⑨ 特別展「近代花鳥画の名手 菊池芳文」について ⑩ 特別陳列「造られたいきもの」展について
2月20日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和2年度笠岡市一般会計当初予算（教育関係）について ② 笠岡市立小・中学校卒業式の祝辞について ③ 小中一貫教育の推進について ④ GIGAスクール構想の実現について ⑤ 第31回笠岡市生涯学習フェスティバルの結果について ⑥ 日本遺産シンポジウム（2月22日）の開催について ⑦ 第23回べいふあーむ笠岡マラソン大会の申込状況について ⑧ ユネスコの無形文化財遺産への提案候補選定について
3月19日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和元年度笠岡市一般会計3月補正予算（教育関係）について ② 令和2年3月笠岡市議会定例会質問・回答について ③ 真鍋島公民館主事の退職について

（2）教育委員会の活動

<市長との意見交換>

総合教育会議において、旧学校給食センターの利活用、幼児・児童の安全対策及び小中一貫教育について市長と教育委員との意見交換を行った。

月 日	場 所	内 容
7月23日	市 長 室	旧学校給食センターの利活用，通学・通園時の子ども達の安全対策
3月10日	市 長 室	学校規模適正化，小中一貫教育及び施設一体型小中一貫校整備の今後のスケジュール

<市議会への出席>

5月臨時会	2日間
6月定例会	6日間
9月定例会	7日間
12月定例会	6日間
3月定例会	6日間
総務文教委員会	毎月1回

(3) 教育委員の研修等

岡山県市町村教育委員会連絡協議会，岡山県都市教育委員会教育長協議会等の総会，研修会へ参加し，直面している課題や今後の取組について研修した。

月 日	会議・研修会等	場 所
4月17日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第1回定例会	岡山市立中央図書館
4月24日	平成31年度教育問題懇談会	岡山県総合教育センター
10月16日	県教育長と市町村教育長との意見交換会	ピュアリティまきび
10月17日	令和元年度中国地区都市教育長会定期総会並びに研究協議会	尾道国際ホテル
10月23日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第2回定例会	玉野市 天満屋ハッピータウンメルカ2階 市立図書館・中央公民館
10月29日	令和元年10月期教育長連絡会議	ピュアリティまきび
11月 5日	令和元年度市町村教育委員会研究協議会	鳥取市とりぎん文化会館
11月 7日	岡山県市町村教育委員会研修会	ピュアリティまきび
12月16日	先進地視察	真庭市北房小学校 外
1月20日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第3回定例会	大原美術館

○その他各種行事・会議への出席等

月 日	行 事 等	場 所
4月 1日	辞令交付式	笠岡市中央公民館ほか
4月19日	校園長会	教育委員会会議室
4月26日	笠岡市公民館協議会総会	笠岡市中央公民館
4月28日	カブトガニ保護啓発運動	大殿洲海岸ほか
4月29日	第38回笠岡子どもフェスティバル	笠岡総合スポーツ公園
5月 9日	教頭会	教育委員会会議室

5月10日	春の交通安全市民運動推進大会	笠岡市保健センター
5月11日	笠岡市PTA連合会評議員会	笠岡市貫閲講堂
5月13日	笠岡市体育協会総会及び表彰式	笠岡市保健センター
〃	第1回笠岡・井原地区教科用図書採択市町 (組合)教育委員会協議会	井原市役所
5月23日	スポーツ少年団指導者協議会総会	笠岡総合体育館
5月24日	(公財)坂本音一育英会・藤井育英会第1 回理事会	教育委員会会議室
5月27日	日本遺産協議会設立総会	笠岡グランドホテル
5月29日	笠岡青少年育成センター指導員連絡協議会 総会	笠岡市中央公民館
5月30日	子ども・子育て推進会議	笠岡市役所
5月31日	笠岡市立地適正化計画策定委員会	笠岡市役所
〃	(公財)笠岡市文化・スポーツ振興財団第 1回理事会	教育委員会会議室
6月 8日	戦没者追悼式	笠岡市民会館
6月12日	子ども・子育て推進会議	笠岡市役所
6月16日	笠岡市手をつなぐ親の会総会及び作品展	笠岡市民会館
6月17日	(公財)笠岡市文化・スポーツ振興財団評議 員会	笠岡市役所
6月19日	(公財)坂本音一育英会議評議員会	笠岡市役所
7月 1日	笠岡警察署協議会	笠岡警察署
〃	笠岡市青少年問題協議会	教育委員会会議室
7月 6日	笠岡市青少年健全育成連絡協議会総会	笠岡市役所
7月 9日	第2回笠岡・井原地区教科用図書採択市町 (組合)教育委員会協議会	やかげ文化センター
7月24日	第3回笠岡・井原地区教科用図書採択市町 (組合)教育委員会協議会	教育委員会会議室
8月 9日	交通安全対策協議会	笠岡市民活動支援センター
8月17日	笠岡市PTA連合会平成31年度予算要望	市長室
8月21日	生涯学習推進懇話会	笠岡市役所
8月23日	校園長会	教育委員会会議室
8月26日	校園長会平成31年度予算要望	市長室
8月28日	笠岡市立地適正化計画策定委員会	笠岡市役所
9月21日	交通安全市民運動推進大会	笠岡市民会館
〃	交通安全フェスティバル	笠岡自動車学校

9月25日	第30回笠岡市生涯学習フェスティバル第1回実行委員会	教育委員会会議室
〃	子ども・子育て推進会議	笠岡市役所
10月1日	笠岡警察署協議会	笠岡警察署
10月21日	教頭会	教育委員会会議室
10月30日 ～11月6日	笠岡市内小・中学校オープンスクール参観	笠岡市内小・中学校
11月3日	笠岡市文化の日記念表彰式	笠岡グランドホテル
11月7日	校園長会	教育委員会会議室
11月9日	笠岡市PTA連合会児童生徒音楽発表会	笠岡市民会館
〃	森田思軒顕彰講演会	笠岡市立図書館多目的室
11月10日	第15回笠岡市青少年スピーチコンテスト	笠岡市中央公民館
11月23日	第42回笠岡市青少年健全育成推進大会	笠岡市中央公民館
11月26日	笠岡市立地適正化計画策定委員会	教育委員会会議室
11月27日	子ども・子育て推進会議	笠岡市役所
11月28日	第2回笠岡市生涯学習フェスティバル実行委員会	教育委員会会議室
12月12日	善行少年表彰式	笠岡警察署
12月15日	第33回カブトガニ駅伝大会	太陽の広場
12月26日	第2回笠岡市立地適正化計画策定委員会	笠岡市役所
1月12日	成人式	笠岡市民会館
1月17日	校園長会	教育委員会会議室
1月19日	たこあげ大会2020	笠岡総合スポーツ公園
1月21日	校長会	教育委員会会議室
1月28日	JR笠岡駅南北連絡施設等整備検討委員会	笠岡市役所
2月4日	笠岡警察署協議会	笠岡警察署
2月9日	第31回笠岡市生涯学習フェスティバル	笠岡市民会館
2月14日 ～16日	第33回笠岡市人権・部落解放文化祭	吉田文化会館・吉田小学校
2月15日	名誉市民推戴式	笠岡グランドホテル
〃	市長と語る会（笠岡市PTA連合会）	笠岡小学校
2月18日	（公財）笠岡市文化・スポーツ振興財団第2回理事会	教育委員会会議室
〃	日本共産党笠岡市委員会との懇談会	笠岡市役所
2月19日	藤井育英会第2回理事会	教育委員会会議室
〃	校園長会	教育委員会会議室

2月21日	笠岡青少年問題協議会	笠岡市役所
2月23日	第42回笠岡市美術展表彰式	笠岡市民会館
2月25日	交通安全対策協議会	笠岡市市民活動センター
2月26日	井戸平左衛門賞表彰式	笠岡市役所
3月3日	第14回笠岡市木山捷平文学選奨表彰式	笠岡市保健センター
3月4日	青空認定こども園オープニングセレモニー	青空認定こども園
3月13日	(公財)笠岡市文化・スポーツ振興財団第2回 評議員会	教育委員会会議室
3月23日	(公財)坂本音一育英会第2回評議員会	教育委員会会議室
3月26日	笠岡市民会館運営委員会	笠岡市民会館
3月31日	退職辞令交付式	笠岡市中央公民館ほか

(4) 学校及び教育施設への支援

○教育委員による学校・教育施設訪問

幼稚園1園，小学校4校，中学校3，公民館等教育施設4施設を訪問した。

(前年度 幼稚園1園，小学校6校，中学校2校，教育施設4施設)

月 日	学 校 等	教育施設等
7月 5日	神島外小学校，白石中学校	神島公民館，白石公民館，B & G 海洋センター
11月11日	尾坂幼稚園，北川小学校，陶山小学校， 城見小学校，新吉中学校，金浦中学校	笠岡総合体育館

各学校（園）における教育目標，研究主題，指導の重点を確認し，授業・部活動状況，施設整備状況，地域との連携，幼・小・中学校の連携等の実情を視察，現在抱える課題について意見交換した。教育施設についても，活動状況や運営状況及び施設整備状況を視察し，今後の課題について懇談した。また，学校開放の時期等を活用して随時，授業参観を行ったり，研究指定校の公開授業を参観して課題の把握に努めている。

○教育委員による学校給食訪問

学校訪問に併せ，食育の推進・地産地消の推進を行っている学校給食センター（共同調理場）及び島しょ部校（単独調理場）の学校給食を試食した。

月 日	学 校 等	調理施設
7月 5日	笠岡市立白石中学校	白石中学校
11月11日	笠岡市立陶山小学校	学校給食センター

2 教育委員会が管理・執行する事務

(1) 教育行政の運営に関する基本方針

令和元年度に「第2期笠岡市教育振興基本計画」を策定し、“学ぶ楽しさ、輝く個性、生き抜く力”の基本理念の基、「「学び」「育ち」をつなぎ、自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進」5施策、「市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進」4施策、「幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成」4施策、「いつでも、どこでも、誰でも気軽に楽しめる生涯スポーツの振興」3施策の各教育行政基本施策を定めた。

(2) 規則等の改廃

規則、要綱の制定・改正・廃止を行った。

- ①笠岡市立学校管理規則の一部を改正する規則について
- ②笠岡市立中学校部活動指導員の任用等に関する要綱について
- ③笠岡市学校給食センター設置条例施行規則の一部を改正する規則について
- ④笠岡市幼稚園保育料の減免取扱規則の廃止について
- ⑤笠岡市幼稚園就園奨励事業実施要綱等の廃止について
- ⑥笠岡市立幼稚園副食費助成要綱の制定について
- ⑦笠岡市立幼稚園副食費助成要綱の全部を改正する要綱について
- ⑧笠岡市実費徴収に係る補足給付事業実施要綱の制定について
- ⑨笠岡市立幼稚園一時預かり保育事業実施要綱の一部を改正する要綱について

(3) 教育関係予算

教育行政に関する令和2年度当初及び令和元年度補正予算を審議した。

(4) 教育委員会の所管に属する学校、その他の教育機関の設置又は廃止

設置又は廃止はなかった。

(5) 職員の任免に関すること

教育委員会事務局職員の人事異動、小・中学校長等の人事異動の内申、幼稚園長の人事異動、地区公民館長の任命について審議した。

(6) 教科用図書の採択の決定に関すること

小学校全科目

(7) 法令等で定められた諮問機関の委員の委嘱

地区公民館運営審議会委員，笠岡市学校給食センター運営委員会委員，笠岡市社会教育委員，笠岡市図書館協議会委員，笠岡市立カブトガニ博物館運営委員会委員，笠岡市立竹喬美術館協議会委員，公民館運営審議会委員を委嘱した。

(8) 市重要文化財の指定及び解除

指定及び解除はなかった。

(9) 教育委員会の点検評価報告書の作成

平成30年度の教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価を実施し，報告書の作成を行った。

自己評価 A

総合教育会議の開催を通して，旧学校給食センターの跡地利用については，小学校の一角にあることを踏まえ，種々のリスクを考慮した上で十分に検討を行うこととし，建物を解体後は当面駐車場として活用することとした。また，「学校規模適正化計画」，「小中一貫教育推進計画」の方向性・スケジュールについて協議する中で，教育委員から市長に対して，計画上必要な予算措置と人材の配置についての要望を行い，施設一体型小中一貫教育校の整備スケジュールを全体として早め，令和10年4月までに金浦中ブロック，新吉中ブロック，神外中ブロックに施設一体型一貫教育校を整備することとし，学校規模適正化計画の対象校である陶山小，新山小は該当ブロックの施設一体型教育校の開設時に統合する方針が示された。

教育の行政需要については，それぞれの地域や学校の規模に，かなり違いがあるため，それぞれの教育課題を的確に把握し，政策や予算に反映できるよう教育行政の充実に努めた。

3 教育行政基本方針・基本施策

《「学び」「育ち」をつなぎ自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進》

基本施策	自立した子どもの育成
担当課	学校教育課

1 確かな学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

目 標

笠岡市では学力・学習状況調査の平均正答率を岡山県下No.1にするという目標が示されています。教育委員会としては、まず子どもたちが落ち着いて学習に取り組めるように、自己肯定感・自己有用感の醸成及び学習集団の人間関係づくりに留意し、友達と切磋琢磨する中で、基礎・基本の定着を図ることを重視します。さらに、個に応じたきめ細やかな指導やICT機器の活用等の指導方法の工夫・改善により、学ぶ楽しさを実感させ、授業や家庭学習等に主体的に取り組む意欲や態度を育成します。また、基礎的・基本的な知識・技能の習得に寄与するために、補充学習の充実、小学校における放課後児童クラブとの連携、中学生検定チャレンジ事業の実施等を通して、学習機会・学習環境の充実を図ります。井戸平左衛門賞等による子どもの顕彰も行い、学習意欲の醸成も図ります。

学校が直面する様々な教育課題の解決のため、笠岡市教育研修所研修部会や学校（園）における研修の充実を図り、諸課題の解決に向けた実践的な研修を推進し、教職員の資質・能力の向上を図ります。校園長会や教頭会等を通じて、日常的なサービスに関して具体的な内容を取り上げて計画的・継続的に研修を行い、サービス規律の厳正化、不祥事の未然防止に努めます。

重点事業

- (1) 新学習指導要領に対応した小・中学校ICT環境整備事業
 - ・市内小・中学校において新学習指導要領に対応した授業を実施するために、学習者用パソコン（3クラスに1セット）や授業支援システムや無線LAN環境等を整備した。
- (2) デジタル教材活用事業
 - ・ICT機器の効果的な活用に向けた情報提供及び研修会の開催
 - ・新採用教員や異動教員へのICT活用のための研修会の開催
- (3) ICT支援員配置事業
 - ・全小中学校 月4回程度（島しょ部は月2回程度）
- (4) 英語教育推進モデル事業
 - ・令和2年度から全国実施される小学校英語教科化に向けて、神外小・中学校及び島しょ部の小・中学校へタブレットやソフトウェア等を整備。
- (5) 外国語指導助手（ALT）配置事業

- ・ 9人のALTを小・中学校ブロックごとにかかわる体制をめざして配置。
 - ・ 英語授業の担当教員を補佐し、生きた英語を親しみやすく児童生徒に伝えた。
- (6) 習熟度別授業・少人数指導等の研究
- ・ 単学級での算数や少人数での数学英語の授業を実施
- (7) 理科観察実験アシスタントの配置 (3名)
- ・ 笠岡小, 中央小, 金浦小, 大井小, 神内小, 大島小, 城見小, 吉田小, 北川小
- (8) 小1グッドスタート支援事業
- ・ 小学校第1学年において30人以上の学級に学習面や生活面をサポートする支援員を配置。 配置校: 大島小学校 (1名)
- (9) 全国学力・学習状況調査の実施及び岡山県学力・学習状況調査の実施
- ・ 令和元年度岡山県学力・学習状況調査結果を踏まえた取組の明確化及び中学校ブロックごとの協議 (実施: 小学校3~5年 中学校1, 2学年)

【令和元年度岡山県学力状況調査中学校1年の結果 (小北中除く)】

() 内は30年度, 下線は正答率が県より上

平均正答率(%)	全体		基礎		活用	
	笠岡	県	笠岡	県	笠岡	県
国語	69.5 (61.7)	70.9 (62.3)	71.6 (64.1)	73.5 (65.1)	<u>62.6</u> (54.3)	62.1 (52.8)
数学 (算数)	<u>72.7</u> (71.1)	71.6 (72.4)	<u>75.2</u> (73.2)	74.2 (74.1)	<u>63.9</u> (63.0)	62.8 (65.8)

【令和元年度岡山県学習状況調査中学校1年の結果「肯定的」回答 (小北中除く)】

学習状況に係る質問項目	笠岡	県
学校の授業時間以外で月~金曜日1日どれくらい勉強しているか (1時間以上2時間より少ない)	<u>54.8</u> (45.0)	47.6 (47.1)
自分で計画を立てて勉強している	64.6 (59.1)	69.7 (66.2)

- (10) 放課後学習サポート事業, 夏チャレンジ学習支援事業, ホリデーチャレンジ学習支援事業
- ・ かさおかホリデーチャレンジ学習支援事業 (15小学校: 151 (H30:158)名参加)
 - ・ かさおか夏チャレンジ(14小学校: 244名参加)
 - ・ 放課後学習サポート支援事業
(15小学校: 269 (H30:356)名参加, 6中学校: 346 (H30:186)名参加)
- (11) 学力向上に向けた中学校市費非常勤講師配置事業
- ・ 学力向上のため, 英語と数学の非常勤講師を笠岡東中学校と笠岡西中学校へ

2名ずつ配置。

(12) 「笠岡市中学生学力向上に向けた検定チャレンジ」事業

- ・笠岡市内に在住の中学生に教育委員会が指定する検定を受検するための受験料を各検定につき年1回に限り補助を行った。

(英語検定：168名，数学検定：51名，漢字検定：120名)

(13) 「井戸平左衛門賞」事業

- ・笠岡市内中学校2年生の生徒の中から，勉学に励み，思いやりの心やたくましさを持ち，他の生徒の模範となる者を学校長が推薦し表彰した。

(13名：小北中を含む)

(14) 教育研修所事業

【研究指定校園発表】

- ・北川小学校・・・人間関係づくり
- ・笠岡西中学校・・・歯と口の健康作り
- ・新吉中ブロック（吉田小，新山小，新吉中）・・・小中一貫教育

【研修部会の参加率・回数等】

() 内は 30 年度

定例部会			特別部会		
参加率 83.07% (83.3%)			参加率 78.46% (78.5%)		
校種	部会	研修会	校種	部会	研修会
幼	2	8回	幼小	6	13回
小	9	27回	中	6	14回
中	9	22回	幼小中	3	8回
小中	3	13回			

事務事業

(1) 指導者用デジタル教科書整備事業

- ・すべての小・中学校に指導用デジタル教科書を整備
国語，数学（算数），理科，地図，地理，歴史，公民，（社会），英語

(2) 特別支援学級における児童生徒用タブレット整備事業

- ・特別支援学級における個別指導や個別の支援に資するため，また，視覚的な充実を図るためタブレット型パソコンと大型モニターを導入。児童生徒のアセスメントを行うためのソフトを導入。

(3) いきいき交流事業

- ・複数の小規模校が教科の学習等とともに進めるなど授業を通じた学校間・地域間の交流活動を実施。

(4) 転入学特別制度

- ・「わくわくシーサイドスクール」活用児童：1名
- ・「神島外中学校転入学特別制度」活用生徒：4名

- ・「神島外小学校転入学特別制度」活用児童：1名
- (5) 小学校における放課後児童クラブとの連携
- (6) 若手教員研修会（かさおか学びウィーク等）
- (7) 校務支援システム活用事業
 - ・電子データ化することにより，児童生徒の出欠席や成績処理等が簡単になり共有する情報の質が向上した。
- (8) 不祥事防止研修事業
 - ・教職員の服務規律の徹底について各校で計画的な研修を実施した。
- (9) 「学校事務共同実施」の充実事業
 - ・共同実施組織を市内3つのグループ（東，西，北）に分け設置。全体の成果や課題を確認するために，年2回共同実施連絡協議会を開催。
- (10) 教員業務アシスタント配置事業
 - ・教員が抱える事務作業等の負担を軽減するため，教員業務アシスタントを配置。
（今井小，新山小，金浦小，吉田小，北川小，神内小，城見小，新吉中，大島中）

成 果

笠岡市「確かな学力」育成プロジェクトを軸に，授業改善や補充学習の充実などの取組を継続した結果，各学校において学習規律の徹底や授業改善が進んだ。その結果，小・中学校の学力・学習状況調査において，成果が少しずつ現れている。学習支援事業に取り組む児童生徒数が減少している。講師の不足，課外時間の過ごし方の多様化等様々な原因が考えられる。今までの学習機会の保障に加え，自分の課題や目標に対して学習計画を立てること等，学習習慣の定着した児童生徒の育成が必要である。学習習慣の定着について，中学校の家庭学習の状況は引き続き課題があるため，各中学校ブロックで「家庭学習・生活習慣の手引」等を作成し，授業との連動や学習・生活習慣の改善を図る活動やキャリア教育の充実に取り組んだ。

指導用デジタル教科書の整備，教職員研修の実施，ICT活用支援員の配置日数増等により，教員のICT機器の活用がいっそう日常的になり，授業改善が進んでいる。ICT支援員を通じて，授業支援ソフトの活用について各校への伝達も進んでおり，成果が現れてきている。

2 幼児教育の充実

目 標

笠岡市と笠岡市教育委員会では，平成31年4月に笠岡市就学前教育・保育施設再編整備計画を策定し，「適正な集団規模の確保」と「公立施設の適正な配置の検討」を基本的な考えに持ち，令和6年まで順次「公立認定こども園」への再編整備を進めていくことにしています。

また，平成30年4月施行の「幼稚園教育要領」（文部科学省），「保育所保育指針」（厚

生労働省)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(内閣府)では、特に3歳以上の子どもの教育において、幼児期に培うべき資質・能力の考え方や幼児教育の内容が共通化されています。

令和2年度に開設する最初の幼保連携型認定こども園及びその後の認定こども園化に向けても、幼児教育の充実をいっそう図って行くことが重要であると考えております。

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、子どもたちの生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を育てるという重要な役割を担っています。特に、基本的な生活習慣の確立と道徳性の芽生えを養うことが大切です。

また、保育所・保育園・認定こども園・幼稚園で多様な体験を通して学んできたことを小学校につなぐために、接続カリキュラム(アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム)の着実な運用を通して保育園・保育所・幼稚園・認定こども園と小学校の連携を図ります。

さらに、家庭・地域との連携を図り、子育て支援活動を充実させます。

重点事業

- (1) 「幼稚園教育要領」, 「保育所保育指針」, 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を踏まえた幼児教育の充実
- (2) 「保育所・保育園・認定こども園・幼稚園」の連携と「保・幼・こ」と「小学校」の連携推進
 - ・ 保育所(園), 幼稚園等と小学校との連携: 全小学校
 - ・ 接続カリキュラム作成に向けての研修会開催
私立保育園・認定こども園対象 6月13日・7月5日
接続カリキュラムの趣旨、円滑な実施に向けての理解を深める。
 - ・ 就学前スクールソーシャルワーカーを配置し、就学前の施設でも、早期実態把握と支援を行った。
- (3) 親子活動や参観日の活動の充実等による家庭や地域との連携
 - ・ 未就園児の園庭解放, 家庭, 地域の方の保育への参画の推進・幼稚園一時預かり5園

成果

保幼小連携の充実や各接続カリキュラム実施に向けて研鑽を深めた。また、保幼一体化については、庁内関係課で引き続き協議し、今後の方向性について決定した。

課題・方向性

学力向上については、教員の意識改革や授業改善、放課後や土曜日を活用した補充学習等、確かな学力を身に付ける取り組みを引き続き充実させる必要がある。補充学習は、日々の授業や課題と連携させることが重要であるため、人材の確保に努め、取組が継続できる

よう支援していく。

家庭学習の充実に取り組む必要がある。家庭学習の時間や内容について中学校ブロックで話し合い、各学校で具現化する取組を行っているが、キャリア教育の手立てとしてもさらに充実を図る必要がある。

就学前教育と義務教育の円滑な接続を図り、切れ目のない指導・支援を行う体制作りを進めていく。

自己評価 B

笠岡市「確かな学力」育成プロジェクトを核として、教員のICT活用による授業改善や補充学習の充実を図ってきた効果もあり、学力・学習状況調査の結果については、おおむね良好であった。また、指導者用デジタル教科書の活用定着、ICT活用支援員配置日数増等により、ICT活用がさらに日常化し、授業改善を推進することにつながった。放課後、土曜日を活用した補充学習と授業との連動、家庭学習と授業との連動等をさらに充実させることが必要である。

小中一貫教育の本格実施を念頭に、中学校ブロック内の校種が異なる教員同士が話し合う機会や内容がさらに充実した。また全中学校ブロックで市内統一の目指す子ども像に迫る取組を設定し、それに基づいて中学校ブロックのテーマ・目指す子ども像を協議し、実践した。また、学習規律の徹底や家庭学習の手引の作成、基本的生活習慣の定着等、連携して取り組んでいる。中学校ブロック内で互いの授業を参観したり外国語等の乗り入れ授業を実施したりする機会がいっそう増えた。保幼小中連携を学力向上とともに就学前教育や特別支援教育等の視点からも検討し、研修会や情報交換を行っているが、さらに取組内容を充実させたい。年度末に各中学校ブロックで「笠岡市連携教育推進報告書」を取りまとめたが、今後も質的な充実をいっそう図った内容を構築したい。

基本施策	共生の心の育成
------	---------

担当課	学校教育課
-----	-------

1 豊かな人間性を育む教育の充実

目 標

価値観の多様化とともに、社会全体のモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘される現状を踏まえ、子どもたちに基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、豊かな人間性や社会性を育む「心の教育」の充実を図ります。特に人・社会・自然などとかかわる体験活動の充実や家庭・地域連携を通して、道徳教育の充実に向けた取組を推進します。

障害の有無やその他の個々の違いを認め合いながら、共に学ぶ特別支援教育を充実させるために、笠岡市特別支援教育推進計画をもとに、個々の教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善・克服するよう、適切な指導及び必要な支援を行います。同時に学校（園）内の指導体制や学校への支援体制を充実させ、特別支援教育に関する教職員の資質の向上を図ります。保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校及び関係諸機関との連携の中で、適正な就学指導、適切な進路指導を進めながら障がいのある幼児児童生徒の教育の充実にも努めます。

また、いじめ、不登校、問題行動の未然防止、早期発見・早期解決に取り組み、子どもたちの好ましい人間関係づくりを推進します。

さらに、すべての子どもが互いの人権を尊重し、共に生きる社会を実現するため、人権尊重の精神の涵養を目的とする人権教育を推進します。具体的には、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、同和問題、在住外国人、患者などの人権問題を自らの課題してとらえ、主体的に解決に取り組む実践的態度を養うため、教育活動全体を通じて、計画的・継続的に人権教育に取り組みます。併せて教育の場においても、教職員が一丸となって子どもの人権を尊重し、一人一人を大切にされた教育の一層の推進を図り、いじめや体罰の根絶に努め、子どもたちを真に大切にす教育活動を展開します。

学校（園）において、安全点検を徹底するとともに、笠岡市危機管理部と連携を図りながら火災や地震、津波等の緊急事態発生時には、全教職員及びすべての子どもたちが適切に対応できるよう避難訓練を充実させるなど、安全で安心して生活できる実効性のある危機管理体制づくりを推進します。

子どもたちが、安心して学習できる環境づくりを行う上では、子どもたちに災害に対する正しい知識・技能をもとに、的確に状況を判断する能力、自らの命は自ら守り、周りの人々のために役立つことができるような防災対応能力も育成します。

重点事業

- (1) 豊かな心を育む総合推進事業

総合的な学習の時間を中心とした体験活動の充実

(2) P T Aや警察，笠岡青少年育成センター，関係諸団体との安全に関する連携活動の推進

- ・保護者や地域住民との積極的な連携
- ・地域と連携した避難訓練の実施
- ・安全パトロール隊，見守り隊，子ども110番 等
- ・救急救命法講習会の開催
- ・「地震・津波等対応マニュアル」及び防災教育実施計画の見直し
- ・岡山県警察本部と笠岡市教育委員会との相互連携制度に関する協定による警察と連携した安全確保

事 務 事 業

(1) 笠岡市いじめ問題対策基本方針に基づく取組

【いじめ発生状況（公立：国立：私立計）（小北中含む）】

※ 1,000人当たりの認知件数（認知件数÷在籍児童生徒数×1000）

年度	小学校			中学校		
	全国	岡山県	笠岡市	全国	岡山県	笠岡市
H28	36.6	12.24	0.89	20.8	12.52	6.88
H29	49.1	15.79	5.99	24.0	16.71	15.29
H30	66.0	24.98	17.52	29.8	18.67	31.92

(2) 生徒指導主事連絡協議会の開催

- ・市内中学校生徒指導主事、笠岡警察署、笠岡青少年育成センター 参加
年6回開催 当番校：大島中学校

(3) 「いきいきチャレンジたいけん」の実施

- ・市内全中学2年生対象の職場体験：4日間 参加生徒数 332名

(4) 笠岡市教育活動支援事業（非常勤支援員の配置）

- ・幼稚園5園 ・小学校13校 ・中学校5校：計46名配置
- ・笠岡市教育支援員研修会 5月30日

講師 県立西備特別支援学校地域コーディネーター

(5) 4歳児発達支援事業（子育て支援課と連携）

- ・早期相談・早期支援

(6) 相談支援ファイル「かけはし」啓発事業（全保幼小中への配布及び活用）

(7) 特別支援教育連絡会（就園児，就学時，小中学校）事業

- ・特別支援教育担当者研修会の実施
- ・就学指導に関わるこ・保・幼・小連絡会の実施：年1回

(8) 教育相談室事業・教育支援センター支援事業（ほっとふれんず）

【教育相談室・教育支援センターへの通室数及び相談・支援件数（小北中含む）】

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
通室児童生徒数 (含仮通室)	10名 (小1・中9)	10名 (小1・中9)	7名 (小3・中4)
教育相談室	延べ 718件	延べ 553件	延べ 513件
教育支援センター	延べ 261件	延べ 573件	延べ 500件

(9) 笠岡市いじめ・不登校対策総合推進事業

【不登校発生状況〈公立：国立：私立計〉（小北中含む）】

※ 出現率（不登校児童生徒数÷在籍児童生徒数×100）

年度	小学校			中学校		
	全国	岡山県	笠岡市	全国	岡山県	笠岡市
H28	0.47	0.51	0.27	3.01	2.52	0.51
H29	0.54	2.73	0.23	3.25	0.57	1.53
H30	0.7	2.73	0.28	3.65	0.57	2.54

【令和元年度岡山県学習状況調査中学校1年の結果「肯定的」回答%（小北中除く）】

()内は30年度，下線は県と比較

内面に係る質問項目	笠岡	県
自分には、よいところがあると思う	79.9(77.2)	80.7(79.3)
将来の夢や目標をもっている	<u>86.2</u> (85.0)	85.8(86.3)
学校のきまりを守っている	<u>95.0</u> (95.0)	94.3(94.6)
人が困っているときは、進んで助けている	90.1(86.2)	90.5(90.4)
人の役に立つ人間になりたいと思う	—(—)	—(—)

【暴力行為発生状況〈公立：国立：私立計〉（小北中含む）】

※ 1,000人当たりの発生件数（発生件数÷在籍児童生徒数×1000）

年度	小学校			中学校		
	全国	岡山県	笠岡市	全国	岡山県	笠岡市
H28	3.5	3.7	0.9	8.8	10.1	1.72
H29	4.4	4.69	5.99	8.5	10.2	5.4
H30	5.7	4.13	8.05	8.9	12.79	2.82

- ・スクールカウンセラーの配置（市内全小中学校）
- ・不登校対策支援員の配置（4校）
笠岡東中，笠岡西中，金浦中，神島外中
- ・いじめ対策支援員の配置 1名

- (10) 小学校における不登校対策実践研究事業
- ・登校支援員（4校）
 笠岡小，中央小2人，金浦小，大井小
- (11) スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカーの配置事業
 市内全小中学校へ配置
- (12) いじめ・体罰の根絶に向けた学校（園）における人権教育の推進事業
- ・各校における人権教育全体計画・年間指導計画の作成及び担当者研修の実施
 - ・人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成
 - ・人権課題解決のための自立支援
 - ・人権を尊重する環境づくり
 （自他を尊重する集団形成，人権に配慮した教育指導）
 - ・人権週間（12月）における取組
 各校において，各教科・総合的な学習の時間・特別活動等における様々な人権課題を題材とした学習を通して，共生社会の実現に向けた意識の高揚を図った。
 - ・PTA人権教育研修会
 参加率：令和元年度 35.6%，平成30年度 30%
- (13) 人権教育推進のための教職員の研修事業
- ・小・中学校人権教育担当者研修会実施：年2回
 - ・人権教育指導者講座の実施：年4回（H30年4回）
 - ・笠岡市人権教育研究協議会事業実施の支援：年4回
 - ・各中学校ブロック人権教育研修会等の実施：各ブロック年1回
- (14) 小・中学校人権啓発ポスター等コンクール事業（小北中含む）

	令和元年度	平成30年度
応募作品数	68点	56点
入賞作品数	18点	22点

- (15) 人権教育自立促進事業
- ・学習会（人権学習，教科学習ほか）
 笠岡小学校 37回 吉田小学校 21回
 笠岡西中学校 33回 新吉中学校 17回
- (16) 自立促進連絡会事業
- ・年6回実施（H30年6回）
- (17) 学校（園）の安全管理体制充実事業
- ・学校安全計画と危機管理マニュアルの見直しと作成
- (18) 通学路等危険箇所の周知徹底と見直し事業
- ・教職員及び保護者による通学路の安全点検の実施：全小・中学校
- (19) 学校緊急情報配信システムの運用事業

- ・緊急配信メール「すぐメール」の活用
- (20) 学校での定期的な安全点検の徹底（遊具・プール・通学路等）

成 果

岡山県学力・学習状況調査における豊かな人間性の育成に関する項目の肯定的回答は前年度より高い割合であった。しかしながら、中学校における不登校発生率と、小学校における暴力行為の発生状況は近年増加傾向にあり、これからも教育活動全体の中でよりきめ細く自己肯定感を高める取り組みを継続していきたい。

非常勤支援員は前年と同じ規模で配置し、研修会を実施することができた。さらに効果的に活用するため、県が実施する非常勤支援員の研修会への参加を促していくことも必要と考えている。

2 健康教育の充実と食育の推進

目 標

子どもの心身の健康を保持・増進していくために、「早寝・早起き・あいさつ・朝ごはん」の生活習慣の定着を図るとともに、健康を大切にする意欲や態度を育て、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく実践力の育成に努めます。

学校給食では、安全・安心を最優先に衛生管理の徹底に努め、栄養教諭と連携して食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の確立に取り組みます。

重 点 事 業

(1) 食物アレルギーへの対応の充実事業

- ・アレルギーのある児童生徒への対応
特定7品目（卵・乳・えび・かに・小麦・落花生（ピーナッツ）・そば）の完全除去
 - ・アレルギー対応対象者 全82名
 - ・除去食提供 幼：1名 小：23名 中：2名
 - ・牛乳のみ中止 幼：1名 小：2名 中：2名
 - ・情報提供 幼：5名 小：44名 中：12名
 - ・給食中止・幼：1名 小：2名 中：2名
 - ・牛乳だけは飲む：幼0名 小2名 中0名
- 平成30年度までの実績 除去食提供（H30：22人）・情報提供（H30：57人）

事 務 事 業

(1) 健康教育の推進事業

- ・学校保健委員会・学校園における食に関する講話
講話：幼稚園2園

学校保健委員会への出席 16 回

・朝食摂取に関するアンケート結果

1 週間のうち、毎日朝食を食べると回答した人の割合

(有効回答数：計 3,070 名 小学生 2,077 名 中学生 993 名)

小学生 83.8% (H30：82.1%)

中学生 75.7% (H30：75.3%)

全 体 81.2% (H30：79.6%)

(2) 栄養教諭と担任・養護教諭との連携による食育の計画的な推進事業

・栄養教諭や栄養士、調理員等による給食時の学校訪問実施

小学校 10 校、中学校 9 校 累計実施回数 43 回

・栄養教諭による食育の授業・朝食指導の実施

朝食指導 小学校 11 校 13 回

・栄養教諭が実施する食に関する指導 9 回

・残食率の推移

令和元年度 12.7% (令和元：12.7%，H30：13.3%)

適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図るという学校給食の一義的目標のため、学校給食摂取基準に基づき設定した内容で充実した給食となるよう、残食率を把握した。

残食を減らすために学校と情報共有を行い、それぞれの持ち場でできることを考えている。

(3) 給食内容の充実、啓発事業

・笠岡市学校給食展開催 (2 月) テーマ：「減塩習慣を身につける」

・学校給食センター総来場者 692 名 (2 項目に計上した場合もある)

見学 498 名 試食会 291 名 調理実習 27 名 行政視察 32 名

・学校・園での保護者試食会 783 食

幼稚園 5 園 保育所 1 所 計 86 人

小学校 30 回 628 人 中学校 3 回 52 人

(4) 地産地消の積極的な推進事業

・主食である米、吸収率のよいカルシウム源である牛乳は笠岡産を使用している。

地産地消の取組では、市役所関係部局や市内業者とも連携し、献立を工夫した。

もちむぎ (今井地区まちづくり協議会)、パプリカ (サラ)、

ガラエビ (笠岡漁協) を学校給食に使用

給食当日の放送資料として児童生徒へ「一口メッセージ」で地場産物であることを紹介した。地元の食材への関心が高まった。

【県内産使用割合】

・令和元年度 47.4% (H30:43.6%)

成 果

栄養教諭による食に関する指導は、児童生徒自身が朝食の大切さを理解し、実践しようとする意欲を持つことができるよう、小学校5年における朝食指導を中心にこれまで同様に行った。

大井南に学校給食センターが移設され、2年間が経過し市内28の陸地部幼稚園、小中学校に、学校給食衛生管理の基準に基づく安全な給食提供を行っている。

島しょ部は1幼稚園、3小学校、2中学校において自校式（親子式）で学校給食を実施している。衛生管理・食材調達に注意し給食に関連付けた食に関する指導を行っている。

令和元年度、学校給食センターに給食管理・栄養管理システムを導入し、最新の栄養価データに基づく栄養管理を行うとともに、献立作成業務や食材の発注業務を効率的に行っている。警報による臨時休校等の緊急対応時に食材の調整・業者対応が複数名ででき、保護者から預かっている食材費の管理がしやすくなった。

アレルギー対応給食専用ブースでは、専属の担当者が特定7品目完全除去食の調理・提供を行っている。学校給食で使用する食材について、保護者に提示するアレルゲンに関する情報を上記のソフトを用い、人とシステムのダブルチェックを行うことができるようになり、より安全に除去対応を実施する仕組みを作っている。

3 学校体育・スポーツ活動の充実

目 標

子どもたちに生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育て、体力の向上を図るとともに、自他の生命の尊重を基本理念として健康で安全な生活を送ることができる能力・態度・習慣を育てます。1週間あたりの総運動時間が短いこと、運動習慣の二極化の傾向があることなどから、幼児期からの多様な運動の経験、「わかる」「できる」楽しさがある授業の実践、体育的行事や運動部活動を通じた家庭・地域との連携等の充実を図り、運動に親しむ資質や能力を育てます。

重 点 事 業

- (1) 全国体力・運動能力・運動習慣等調査実施と課題の把握及び改善事業
 - ・新体力テストの実施（全小・中学生対象）
 - 「A」段階（優秀章）人数

	令和元年度		平成30年度	
	男子	女子	男子	女子
小学校	149(15%)	168(17%)	162(16%)	178(17%)
中学校	67(12%)	142(31%)	44(8%)	156(33%)

- ・業間運動の実施：全小学校

事務事業

- (1) 小学校学童水泳・陸上運動記録会
 - ・水泳や陸上の特別練習の実施：小学校 16 校
- (2) 中学校総合体育大会・新人大会
 - ・部活動の充実：全中学校

成果

新体力テストにおいて「A」段階が、中学校男子で増加した。体育の授業を、児童生徒が目標を持って取り組むことができているので、体を動かす楽しさややりがいを感じることができている。

課題・方向性

「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」の項目等で多くの児童生徒が肯定的な回答になるように、引き続き自己肯定感・自己有用感を高める取組やキャリア教育の充実が必要と考える。基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成については、学校・家庭・地域・関係機関と連携した取組をいっそう充実させることが課題である。

自己評価 B

豊かな心や健やかな体をもつ子どもを育成するためには、各学校園の取組を充実していくとともに、家庭との連携・協力した取組が不可欠である。

調査結果では概ね県平均と同程度の割合を示してはいるが、体験活動の充実、校種間連携や家庭・地域連携を通して、自己肯定感・自己有用感を高めたり、規範意識を向上させたりすることがさらに必要である。

健康教育、食育の推進については、栄養教諭の指導や学校給食センター職員の学校訪問、学校保健会や給食展開催等、様々な機会をこれまで同様に設けてきた。全市的な取組を通して、子どもだけでなく保護者へも周知を図る手立てをさらに工夫していくことが必要である。

基本施策

郷土愛の育成

担当課

学校教育課

目 標

地域の方々との交流，地域の調査といった，笠岡の自然，歴史，文化，人物等のよさを見つめる学習を通して，郷土愛を深めていきます。特に，ふるさとへの愛着と誇りを醸成するキャリア教育の充実に資するためにも，小中一貫教育の取組の中でキャリア教育の視点を大切に「地域学」を実践します。例えば，日本遺産認定を踏まえた笠岡諸島，笠岡湾干拓地，天然記念物カブトガニ繁殖地，井戸平左衛門，木山捷平等の「笠岡の財産」を取り上げることで，地域や笠岡を愛し，誇りを持つとともに，その発展に寄与する人材を育成することができる学習が展開できると考えます。

また，地域ぐるみで子どもの教育を推進する開かれた学校づくりを推進します。

重点事業

(1) コミュニティ・スクール事業

学校運営協議会・学校評議員会の活用

- ・学校運営協議会（笠岡東中・笠岡西中・金浦中・新吉中・北川小
：年4～5回開催）
- ・学校評議員会（その他全校園：年2～3回開催）

事務事業

(1) 地域教材を活用した総合的な学習の時間等の実践

(2) 地域学校協働本部事業（5中学校・13小学校）

- ・金浦中学校区，大島地区，北木島地区，新吉地区，
小北中学校
中央小学校，神内小学校，神島外浦地区，笠岡小学校
北川小学校，六島地区

(3) いきいきオープンスクール事業：全校で4日間

【参加者数（小北中含む）】

	令和元年度	平成30年度
保護者	2,076人	2,082人
保護者以外	1,084人	991人
計	3,160人	3,073人

(4) CMSによる積極的な情報発信（全小中学校）

- ・地域ぐるみで子どもの教育を推進する開かれた教育課程，開かれた学校づくりを

推進。

課題・方向性

郷土愛を育むための学習（「地域学」）の、地域教材の整理・作成と、キャリア教育の視点を大切にしながら、9年間を見通したカリキュラムを確立していくことが今後の課題である。

また、小中一貫教育の本格実施を見すえ、すべての中学校ブロックに学校運営協議会を設置していく必要がある。

自己評価 A

地域学の教材を、全市的内容で幅広く確認することができた。今後、その内容と児童生徒の発達段階に応じて、系統的なカリキュラムを作成していく。

現行の学校運営協議会はさらに軌道に乗り、地域の方の学校運営参画の意識が増している。また、地域学校協働本部事業も継続して取り組むことができている。

基本施策

小中一貫教育及び学校規模適正化の実施

担当課

学校教育課

目 標

子どもたちが生きていくこれからの世の中は、情報化やグローバル化といった社会的変化が、予測を超えて進展することが想定されています。子どもたちが社会を力強く生き抜くためには、基礎・基本の定着と知・徳・体のバランスのとれた教育の中で、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力を育むことが重要です。

学校の教育環境に一定規模の集団を確保し、義務教育課程9年間を見通した小中一貫教育カリキュラムを実施することによって、子どもたちが学校生活の中で多様な個性と出会い、自己形成に必要な集団活動を行いながら、必要な思考力・判断力・表現力を培うことが実現できます。子どもたちの将来を第一に考えて、小中一貫教育の推進及び学校規模適正化を実施します。

小中一貫教育の推進は、平成23年度から進めてきた中学校ブロック単位の連携教育の成果を踏まえて行います。9年間の系統性制に配慮した教育課程を編成し、小学校と中学校における教育を一貫するためにふさわしい運営の仕組みを整えます。「笠岡市教育審議会」から提出された答申書を踏まえ、笠岡市小中一貫教育推進計画を策定します。

各学校で、地域と連携した特色ある教育活動を、これまでよりも長期的・発展的に実施できる環境を整えていきます。小学校における英語教育の充実や高学年一部教科担任制の実施、小学校中学校教員の相互乗り入れ授業の実施等を計画的に導入します。全教科において、つまづきやすい学習内容を長期的視点から、きめ細やかに指導します。

幼児期から小・中学生期までを見通し、継続的した学びの充実も図ります。

また、児童生徒数の推移を見据えながら、子どもにとって望ましい教育環境を整え、より一層教育効果を高めていくために、平成26年3月に策定された学校規模適正化計画を修正し、実施します。学校（園）においては、学校評議員会や学校運営協議会等を通して、地域住民や保護者の意見や助言を学校運営に生かすと共に、地域学校協働本部事業の活用を図るなど、地域ぐるみで子どもの教育を推進する体制づくりに取り組みます。

事 務 事 業

(1) 小中一貫教育推進計画策定、実施

- ・小中一貫教育推進計画の策定のため、パブリックコメントや地域説明会（5会場）を実施
- ・笠岡市小中一貫教育のリーフレットを全戸配布
- ・小中一貫教育カリキュラムの試作版を作成し、市内各校へ配布
- ・教職員対象の小中一貫教育研修会を2回（8月，2月）開催
- ・義務教育学校府中学園の視察

(2) 笠岡市立小・中学校の学校規模適正化の修正，推進

- ・笠岡市立小・中学校の学校規模適正化計画の改訂
- ・笠岡市立小・中学校の学校規模適正化説明会の実施

課題・方向性

小中一貫教育推進計画は策定のための説明会を実施した。引き続き丁寧に説明を続け，幅広く周知していくことが課題である。

学校規模適正化計画の改訂も行い公表した。地域に対して丁寧に説明し，合意形成をしていくことが課題である。

自己評価 B

「小中一貫教育推進計画」策定し，基本方針や今後のスケジュール等の取組を明確にすることができた。それを基に，保護者・地域住民等への説明会を実施し，小中一貫教育の意義について一定の理解を得られた。

小中学校教職員の意識の醸成を図るため，合同研修会を実施し，笠岡市の教育の方向性を示した。地域・保護者並びに教職員に対しては，引き続き丁寧に説明を行い，一体となって小中一貫教育を創り上げていくという意識を醸成していきたい。

学校規模適正化計画について，改訂版を策定することができた。保護者・地域との合意形成のため，説明会や個別の協議など，必要に応じて柔軟かつ丁寧に対応していきたい。

基本施策**学校施設等の整備****担当課**

教育総務課

目 標

校舎等施設の営繕等を適切に実施するとともに、安全対策の充実と教育環境の向上に努める。

事務事業

(1) 構造体・非構造部材の耐震化事業

学校施設は、児童・生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であると同時に、多くの学校が災害時における各地域の避難場所としての役割を担っている。こうしたことから、教育環境の安全確保及び危惧されている南海トラフ地震に対処するための児童・生徒及び地域住民の安全拠点として整備をする。

耐震化工事が完了した学校施設については、天井材や設備機器などの非構造部材の耐震化対策についても引き続き落下防止等の対策を実施し、安全な教育環境の提供を図った。

【小中学校の耐震化率（令和元年度末）】

笠岡市 100%（前年比：±0%）（非木造）
97.4%（木造含む）

【主な工事】

学校名	事業名	事業費（千円）
笠岡東中学校	非構造部材改修工事	2,893
金浦中学校	体育館照明器具更新工事	1,231

成 果

非構造部材の耐震化について、今後の方策の検討を進め、対策を実施した。

(2) 空調設備設置事業

児童・生徒の授業への集中による学力向上効果や近隣住民への騒音対策及び園児の体調管理を図るため、小・中学校の普通教室、特別教室（音楽室、理科室）及び幼稚園の保育室、遊戯室に空調設備を年次的に整備することとしており、令和元年度は小学校9校、中学校1校で工事を実施した。

【令和元年度に空調設備設置工事を実施した学校】

小学校：今井小学校、陶山小学校、吉田小学校、新山小学校、北川小学校、

神内小学校, 北木小学校, 真鍋小学校, 六島小学校
中学校: 真鍋中学校

成 果

年次的に空調設備の整備を行ったことにより, 幼稚園, 小学校, 中学校の全てで設置済みとなった。

(3) トイレの洋式化等整備事業

児童生徒が安心して利用できるよう, 年次的にトイレの洋式化工事を実施することとしており, 令和元年度は幼稚園1園, 小学校3校, 中学校1校で工事を実施した。

【令和元年度にトイレの洋式化工事を実施した学校・園】

小学校: 吉田小, 中央小学校
中学校: 笠岡東中学校, 笠岡西中学校
幼稚園: 富岡幼稚園

成 果

計画的にトイレの洋式化工事を行うことにより, 教育環境の改善が図られた。

【幼・小・中のトイレ洋式化率】

令和元年度末 46.4% (平成30年度末 42.2%)

(4) 教育施設法定点検事業

建築基準法第12条に基づく法定点検を実施することにより, 学校施設の老朽化・危険箇所を把握し, 修繕・更新を計画的・効果的に行うことで, より安心・安全な教育環境を提供するとともに, 財政負担の軽減・平準化を図ることとしており, 令和元年度は, 幼稚園4園, 小学校6校, 中学校3校で点検を実施した。

【令和元年度に建築基準法第12条に基づく法定点検を実施した学校・園】

小学校: 中央小学校, 北川小学校, 神内小学校, 神島外小学校, 北木小学校,
新山小学校
中学校: 笠岡西中学校, 大島中学校, 神島外中学校
幼稚園: 笠岡幼稚園, 大井幼稚園, 横江幼稚園, 北木西幼稚園

成 果

法定点検を通して老朽箇所・危険箇所を把握し, 修繕の効果的な実施が図られた。また, 令和2年度に策定予定の長寿命化計画に繋げることができた。

(5) 校務員業務委託事業

学校施設の管理・運営上必要な環境整備を図り、快適な教育環境を提供するため校務員業務について、シルバー人材センターと委託契約を結び、学校施設の環境整備に努めた。

成 果

学校からの要望に基づき、草刈、樹木の剪定、消毒、建具等の塗装等を行うことにより、学校施設の環境整備が図られた。

(6) 学校園の各種営繕事業

学校施設の営繕・整備について、適切に実施し、児童・生徒の安全を確保するため、各学校園の現場からの要望を集約し、危険度・緊急度を精査し、施設の営繕・整備を行った。また、倒壊のおそれのあるブロック塀については、改修を行った。

【主な工事】

学校名	事業名	事業費（千円）
大井小学校	大プール底修繕工事	2,244
中央小学校	倉庫新設その他工事	1,274
大井小学校	樹木伐採工事	1,274
笠岡小学校	体育館仮設幕その他工事	1,287
大島小学校	屋外便所解体工事	1,242
金浦中学校	汚水配管修繕工事	1,252
中央小学校	ブロック塀改修工事	15,708
新山小学校	ブロック塀改修工事	6,897
大島小学校	ブロック塀改修工事	1,825
新吉中学校	ブロック塀改修工事	4,103
北木中学校	ブロック塀改修工事	4,532

成 果

学校施設等については、昨年と同様に優先度等を勘案し、適切な営繕及び整備を進め、より安全で快適な教育環境の向上に努めた。また、危険なブロック塀については改修を行い、児童生徒の安全確保に努めた。

課題・方向性

天井材や設備機器などの非構造部材の耐震化対策については、建築基準法に基づく法定点検の結果を踏まえながら、落下防止等の対策を引き続き実施し、安全な教育環境の提供を図る。

学校施設の営繕・整備についても、危険度・緊急度等を勘案し、児童・生徒が安全で安心した学校（園）生活が送れるよう、教育環境の向上に努める。

トイレの洋式化等整備事業については、次年度以降も計画的に事業の進捗を図る。

自己評価 B

非構造部材の耐震化対策については、まだ始まったばかりであり、各学校の実態に応じて早急に対策を進める必要がある。

空調設備の設置及びトイレの洋式化工事については、計画どおり実施し、事業の進捗を図った。

校舎等施設の整備と安全確保の推進については、危険度・緊急度を勘案した整備を実施しており、引き続き、限られた予算の中で危険度・緊急度を勘案し施設整備を図っていききたい。

《 市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進 》

点検・評価項目

いつでも、どこでも、学びたいときに学ぶことができる
機会の提供

担 当 課

生涯学習課・学校教育課

目 標

市民に多様な学習機会を提供するとともに、公民館や図書館等の社会教育施設の利用促進を図るため、各施設の環境整備・サービスの充実を図ります。

- ・図書館においては、来館者が利用しやすい環境・設備の整備や、ニーズに合った図書の購入、行事の開催等により、サービスの充実を図ることで、来館者の増加につなげます。
- ・公民館、サンライフ笠岡、老人福祉センター等での講座をはじめ、市民団体等が自主的に行う学校等を支援し、市民が学ぶ機会の充実を図ります。
- ・市民ニーズを把握し、ニーズに応じた講座を新設する等、学習内容を充実します。さらに、ホームページやSNS等を活用し、学習情報を広く提供します。
- ・人権施策基本方針に基づき、関係機関と連携しながら様々な課題の解消に取り組みます。

重 点 事 業

(1) 公民館等講座

講座を通じて、地域住民が気軽に集い、学び、多くの人と交流することができた。また、新しい知識、技術を習得できるように、市民のニーズにあった講座を開催した。

令和元年度

主催講座	5 講座	受講者	1,785 人
自主講座	49 講座	受講者	15,296 人

平成 30 年度

主催講座	5 講座	受講者	1,804 人
自主講座	49 講座	受講者	16,150 人

(2) 図書館事業

誰もが気軽に利用できる図書館を目指した取組や行事の開催等により、来館者数の増加につなげることができた。また、貸出冊数も増加した。

令和元年度	来館者数	104,017 人	貸出冊数	283,443 冊
平成 30 年度	来館者数	99,441 人	貸出冊数	276,762 冊

事務事業

(1) 公民館活動助成事業

市民の主体的な参加のもと、各公民館独自の活動事業を積極的に推進することにより、心豊かでたくましい人間尊重のまちづくりを実現し、地域の課題解決を図った。

地区公民館 20 館

実施事業数 令和元年度 106 事業 平成 30 年度 108 事業

(2) まちづくり出前講座

講座メニューを 73 講座から 77 講座に増やし、出前講座の利用促進を図った。

実施件数 令和元年度 367 件 平成 30 年度 360 件

受講者数 令和元年度 14,864 人 平成 30 年度 13,175 人

(3) 市民大学教養講座

文化や知識を広い視野から吸収するための学びの場を提供することにより、生きがいや豊かな人生を過ごすための一助とすることができた。

講座数 令和元年度 2 回 平成 30 年度 3 回

延べ人数 令和元年度 57 人 平成 30 年度 73 人

(4) 県西部の文化事業（岡山県生涯学習大学連携講座）

3 市 2 町が連携し、各地域の歴史、文化、人物等に触れあう機会を提供し、県民の学習意欲を引き出した。

参加者数 令和元年度 50 人 平成 30 年度 50 人

(5) たくましい笠岡っ子事業

子ども自身が主体的に体験活動していく中で、たくましさを身につけていくことをねらいとして、小学校 3 年生から 6 年生を対象に、自然体験活動、社会体験活動を行った。また、地域における世代間交流や職業体験を提供することで、地域への愛着を深めた。

参加者数 令和元年度 112 人 平成 30 年度 95 人

(6) 生涯学習カレンダー等の作成・配布

体験活動機会や家庭教育の支援に関する情報を掲載した情報誌を発行し、市民の参加を促した。

生涯学習カレンダー 年 2 回 (245 部/回)

ぼっけえかさおかわんぱく宝箱 年 4 回 (5,010 部/回)

(7) 社会教育での人権教育（地域公民館人権啓発事業等）

住民の人権意識の高揚を目指し、地域公民館を中心として、講演会、交流・体験活動を実施した。

- ・今井公民館 戦没者遺骨収集事業について 30人
- ・北川公民館 ビデオとお話で人権を学ぼう 24人
- ・神島公民館 人権落語 30人
- ・城見公民館 歌声喫茶 83人
- ・真鍋島公民館 幸せになるコミュニケーションのコツ 30人

成 果

図書館では、市民の来館を促進する取組を実施したことにより、来館者が増加した。また、図書館システムの更新やピクトグラムの導入により、利用者の利便性の向上を図ることができた。

公民館活動助成事業では、地区公民館の創意工夫した事業により、多種多様な活動を通じて教養を深めるとともに、三世代交流、地域のふれあい等を推進することができた。

まちづくり出前講座では、受講者数、実施件数ともに前年度実績より増加しており、市民に様々な学習機会を提供することができた。また、講座メニューを増やすことにより、学習機会の拡充が図れた。

たくましい笠岡っ子事業では、メニューの1つに高校生と連携した企画を入れ、社会体験を提供するとともに小学生と高校生における世代間交流を図り、人と人とのつながりづくりに寄与することができた。

県西部の文化事業において、笠岡市では日本遺産認定に伴い、日本遺産に関する講義及び現地散策を行い、県内参加者から大変良い評価を得ることができ、社会教育の推進の観点だけではなく日本遺産の周知にも貢献することができた。

課題・方向性

図書館では、様々な理由で来館が困難な市民へのサービスが課題となっている。新たな自動車文庫ステーションの設置や図書の配本箇所を増加等を検討し、市民が本にふれる機会を増やす取組を考えていきたい。

出前講座では、例年防災分野の講座が高い割合を占めているが、今年度は福祉・健康・環境等各分野の実績が増えており、市民ニーズに合ったメニューの構築ができてきている。引き続き、市民の知りたいこと、学びたいことの把握に努め、メニューに反映させていきたい。

県西部の文化事業は、他事業と違い3市2町の連携事業であること、また対象を県民とする事業であることから大変貴重な広域連携事業として捉えているが、メニューのマンネリ化、参加者の固定化などの課題が生じている。各市町ともに新メニューの構築及び新規参加者の呼び込みなど新たな工夫が必要となっている。

市民大学教養講座では、講座の目的である「自分の人生をより豊かに、そしてより充実した人生に」また「楽しんで学ぶ」ことができる講座を考えていきたい。

自己評価 A

公民館講座，図書館事業，出前講座など市民に多種多様な学習機会を提供することができ、「いつでも，どこでも，学びたいときに学べる機会の提供」という点で一定の成果を出すことができた。

たくましい笠岡っ子では、「世代間交流」，「職業体験」の2つのテーマを掲げ，それらを達成するため，地域の高校・企業と連携して事業を企画することができ，児童に日頃できない体験を提供することができた。また，人気メニューであるキャンプにおいては，近年の猛暑の影響で，参加者やスタッフの体調管理が困難になってきているが，令和元年度はデイキャンプを試行し，参加者やスタッフの体調面で問題なく体験活動を提供することができ，一つの方向性を示すことができた。

図書館事業においては，平成29年度の開館日の増加，開館時間の延長を実施して以降，年々来館者が増加しており，令和元年度では年間来館者数が初めて10万人を突破した。例年実施しているブックスタートや巡回文庫などの市民サービスだけではなく，映画会やおはなし会，展示，講座など市民の来館を促進する取組を実施することができた。また，県内の大学との連携により，館内にピクトグラムを導入し，来館者の利用環境の改善に取り組むことができた。

点検・評価項目

学習成果を活かしたまちづくり

担 当 課

生涯学習課

目 標

地域課題の解決や地域の特徴を活かした地域づくりの場としての公民館やまちづくり協議会の取組の状況や活動の成果を広く知らせる等、市民や団体が活動成果を発信する機会をつくり、市民の主体的な学習や活動意欲を引き出します。

- ・教育委員会が提供する講座等の他に、政策部、健康福祉部、産業部等様々な部署がそれぞれの行政目的に提供している「出前講座」においても、「生涯学習のまちづくり」の意識を共有できるように工夫します。
- ・地域課題の解決に向けた市民自身の学習や、学習した成果を発揮する場を提供し、地域コミュニティ活動の一層の活性化を図ります。

事 務 事 業

(1) 生涯学習フェスティバル

日頃から生涯学習に取り組む団体の活動成果を発揮する場を提供することで、生涯学習への意欲を高めるとともに、生涯学習に取り組むきっかけづくりの場となった。

参加団体数	令和元年度	91 団体	平成 30 年度	89 団体
参加者数	令和元年度	3,950 人	平成 30 年度	4,250 人

(2) 若いいちょうの木の集い

市内の幼児学級が集い、親子のふれあいとともに地域間の交流を深めた。

参加人数	令和元年度	58 人	平成 30 年度	37 人
------	-------	------	----------	------

(3) 青少年スピーチコンテスト

青少年がスピーチを発表し、論理的に物事を考える力や自分の主張を正しく伝える力を育み、学び合う機会を提供した。令和元年度は平成 30 年度で募集を中止した小学生の枠を再度設けて開催した。

発表者	日本語の部	小学生 1 名	中学生 4 名	
	英語の部	中学生 4 名		
参加者	令和元年度	110 人	平成 30 年度	60 人

(4) 「明るい家庭づくり」作文

「明るい家庭」、「地域との関わり」等をテーマとした作文を募集し、家庭づくりや家庭教育についての意識向上を図った。

作品数 令和元年度 1,086 作品 平成 30 年度 1,126 作品

成 果

生涯学習フェスティバルは、過去最高の出展団体が参加し、日頃の学習成果を発揮する場として大いに盛り上がりを見せ、生涯学習への意欲を高めることができた。また、参加者数は前年度より減少したものの約 4,000 人の市民が参加し学習活動に取り組む契機となる大会となった。

幼児学級については、昨年度から減少し市内 2 学級となったが、若いいちょうの木の集いを開催することができた。当初は参加者の確保に不安があったが、学級代表者と協議し休日の開催としたところ、平成 30 年度より多くの幼児・保護者が参加した。これにより、親子のふれあいの場を提供することができた。また、金浦地区と北川地区の地域間交流につながり、家庭教育の推進に寄与するものとなった。

青少年スピーチコンテスト、明るい家庭づくり作文は、児童生徒が自分の考え方や想いを伝えるきっかけとなっただけではなく、家庭・地域・学校が青少年への理解を深める契機となった。

課題・方向性

生涯学習フェスティバルは、参加者が前年度より減少したものの近年多くの市民・団体が参加しており、本市の生涯学習の推進に大きく貢献する大会となっている。令和元年度の参加団体は過去最大の 91 団体となっており、会場調整が難しくなっているが、参加申込みがあった団体は可能な限り受入れていきたいと考えている。多くの方に参加していただいているが、午前中に集客が集中していることから、日中バランスよく集客できる工夫を取り入れていきたい。

若いいちょうの木の集いの主体となる幼児学級が市内で 2 団体となってしまい、既存の学級においても構成員の確保が年々難しくなっており、幼児学級の継続が難しくなっている。対策として、既存学級への支援を継続するだけではなく、学級が存在しない地区に幼児学級の意義や在り方などを知ってもらい、新学級の設置や既存学級への参画を促していきたい。

スピーチコンテストでは、昨年度に参加人数を確保できない小学生の部を中止としたが、関係者や参加者から小学生の参画を希望する声が多くあったことから再度募集した。その結果、小学生の参加は 1 名と定数には達することができず、今後はいかに小学生にスピーチの目的や意図、やりがい等を伝え参加者を確保できるかが課題となっている。

自 己 評 価 B

各事業において、参加者の増加、内容の充実、スムーズな進行などを意識的に取り組み、関係団体と協議しながら例年とは違う工夫を取り入れることができ、一部の事業ではその成果が見られた。

生涯学習フェスティバルは、前年度より参加者が減少したものの、参加団体数は増えており、団体間の調整や生涯学習の輪の広がりには評価できるものであった。また、全庁的に取り組む日本遺産事業を題材にした取組を企画し、市民への周知に貢献することができた。さらには、高校による舞台発表や前年度好評であったポスターデザインコンテストなど若者の参画も各場面で見られ、各世代が集う大会として開催することができた。

スピーチコンテストでは、小学生の参加を促すため募集方法を改めたが、結果を出すことができず、課題解決とはならなかった。引き続き、小学生の参加を促す仕組みづくりを検討していきたい。

点検・評価項目

家庭・地域・学校と一体となった地域ぐるみの教育支援

担 当 課

生涯学習課

目 標

家庭・地域・学校における人と人とのつながりの輪を広げる交流を盛んにするとともに、地域文化を高め、地域に誇りを持つことのできるように地域全体で子どもの健やかな成長を見守りながら、地域ぐるみの教育支援を行います。

- ・関係機関等と連携を取りながら地域の人材育成に取り組む等、地域の教育力向上を図ります。
- ・青少年には、声かけを実施するとともに、関係機関・団体との連携を強化し、地域で見守り活動を行います。

重 点 事 業

(1) 地域学校協働本部事業

地域住民の参画によって学校教育における学習支援、環境整備、見守り活動など支援活動を行った。

実施校 5 中学校（金浦，新吉，大島，北木，小北）

13 小学校（笠岡，中央，金浦，城見，陶山，新山，吉田，神内，神島外，大島，北川，北木，六島）

学校支援活動への参加者数 令和元年度 33,188 人 平成 30 年度 33,534 人

(2) 放課後子ども教室推進事業

地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得て、放課後等を過ごす児童生徒に体験学習や学習支援などを提供する放課後子ども教室を実施した。

実施団体数 令和元年度 9 団体 平成 30 年度 10 団体

(3) 土曜日教育支援事業

地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得て、土曜日や休日等を過ごす児童生徒に体験学習や学習支援などを提供する土曜日教育支援事業を実施した。

実施団体数 令和元年度 9 団体 平成 30 年度 9 団体

(4) 育成センター事業

地域・家庭・学校・関係機関等と連携し、補導活動、環境浄化活動、面接相談、啓発活動などを実施した。

- ・青少年健全育成強調月間街頭キャンペーン（7月10日，11月12日・13日）

- ・第42回青少年健全育成推進大会（11月23日）
- ・岡山県少年補導（育成）関係者研修会（8月23日）

令和元年度	補導件数	5件	注意	107件	声かけ	490件
平成30年度	補導件数	7件	注意	125件	声かけ	1,167件

（5）北木島宿泊体験事業（北木島宿泊研修所）

青少年に北木島特有の地域資源を活用した学習プログラムを提供した。また、指定期間の満了に伴い、継続的な運営を行うため、公募型プロポーザル方式によって次期指定管理者を選定した。

年間利用者数 令和元年度 714人 平成30年度 602人

事務事業

（1）親育ち応援学習プログラム

各学校園において保護者を対象にした研修会や学習会の中で、子育て・家庭教育に資する「親育ち応援学習プログラム」を実践した。

実施校数 令和元年度 幼稚園3件 小学校4件 中学校1件
平成30年度 幼稚園0件 小学校3件 中学校0件

（2）高校VYS事業

青少年が主体となった奉仕活動やレクリエーション活動等を通じて、会員相互の連携強化と地域社会の福祉増進を図った。主に活動内容として、島しょ部清掃ボランティア活動、台風19号災害に伴う街頭募金活動、恵風荘への備品寄贈（車椅子・歩行器）などを行った。また、これらの取組が他の青少年の模範になるとして岡山県わかば賞の受賞に至った。

会員数 令和元年度 52人 平成30年度 35人

（3）青少年健全育成事業

地区組織が取り組む補導活動、環境浄化活動、健全育成活動、啓発広報活動に対して補助金を交付して支援した。

交付団体数 11団体（笠岡東、笠岡、笠岡西、新吉、大島、神島外・高島、白石、北木、真鍋、六島、小北）

成果

地域・学校・家庭等が一体となって地域学校協働活動に取り組むことで、学校教育の支援や社会教育の推進、そして地域における絆づくりに寄与した。また、放課後子ども教室や土曜日教育支援の実施によって、放課後や休日における子どもの居場所づくりとなった。

育成センター事業では、地域・学校・家庭・行政・関係機関等と連携して市内だけでな

く、広域的な補導活動等を行うことで青少年の自立と問題行動の未然防止など青少年の健全育成に寄与した。また、令和元年度は本市にて岡山県少年補導（育成）関係者研修会を開催し、県下の関係者が集い相互の情報交換や活動報告等を通じて、今後の効果的な活動に資することができた。

北木島宿泊研修事業では、開所以降年間利用者数が微減していたが、指定管理者と連携して継続的に周知啓発活動を行ってきた結果、年間利用者数を増加することができ、青少年の健全育成と地域の活性化に取り組むことができた。

課題・方向性

地域学校協働本部事業では、令和元年度から小北中学校に地域学校協働本部を設置することができ、小北地区における地域・学校・家庭等が一体となった学校教育の支援体制を整備することができた。令和2年度には笠岡東中学校が設置することとしており、引き続き中学校区への本部設置を進めていきたい。また、文部科学省が地域学校協働本部と学校運営協議会との連携協力体制の整備を掲げており、中学校区で学校運営協議会の設置を目指す学校教育課と情報共有を図りながら足並みを揃えていきたい。

放課後子ども教室及び土曜日教育支援事業は、児童生徒に対する社会教育の提供、放課後・休日等の居場所づくりを目的としていることから、本事業に取り組む団体数の増加を目標としているが、近年実施団体数が横ばい状態となっており、目標数に至っていない。今後は、実施団体の確保に努めていきたい。

育成センター事業では、補導活動において「声かけ」の件数が減っているのは基準の見直しに伴うものであり、今後とも青少年への「声かけ」を積極的にしていくことで青少年の健全育成につなげていきたい。また街頭キャンペーン等でインターネットやSNSで青少年が加害者・被害者にならないように啓発活動を進めていきたい。

高校VYS事業の現状として、笠岡商業高校・笠岡工業高校の生徒で協議会を維持してきたが、令和元年度をもって笠岡商業高校の生徒が卒業したため、来年度以降は笠岡工業高校の生徒のみで構成することになってしまい、協議会として成立していない。令和2年度から笠岡高等学校にボランティアサークルが創設されるということもあり、まずはその2校がつながるきっかけづくりに努め、連携体制を整備していきたい。

自己評価 B

地域・学校・家庭・関係団体等の連携によって、地域ぐるみで学校教育の支援、家庭教育・社会教育の推進、青少年の健全育成に取り組むことができているので、更なる連携強化を図り、地域で子どもを育てる環境の充実を目指していきたい。

地域学校協働本部については、令和元年度から小北中学校に、令和2年度から笠岡東中学校に新設しており、中学校区単位で学校教育の支援体制が整備できているので、未設置の学校区にも取り組んでいきたい。放課後子ども教室・土曜日教育支援事業は、前年度から実施団体が1団体減ってしまったので、目標値を達成するため実施団体の確保に努めて

いきたい。

北木島宿泊研修事業では、開所以降、年間利用者数が一番多く、普及啓発に努めている成果が見られた。引き続き、青少年の健全育成及び地域の活性化を図るため、施設の利用促進を図っていきたい。

点検・評価項目**社会教育に取り組む市民や団体との協働と支援****担 当 課**

生涯学習課

目 標

市民団体等の育成・支援を図り生涯学習の輪を広げることにより、活力ある地域社会を形成します。

- ・社会教育関係団体や市民団体と行政との協働による事業を進めることで、市民の知恵や力をまちづくりに発揮できるようにします。

事 務 事 業**(1) 子ども会育成事業**

子ども達の交流や親子のふれあいを提供するため子ども達に体験学習を実施する子ども会を支援した。

笠岡市子ども会育成連絡協議会 子ども会 28 団体 675 人

(2) 笠岡市婦人協議会育成事業

地域における家庭教育を推進する活動を行う婦人協議会を育成・支援した。

笠岡市婦人協議会 婦人会 4 団体（笠岡，吉田，新山，陶山地区）187 人

(3) 笠岡市 P T A 連合会育成事業

地域における家庭教育を推進する活動を行えるように家庭教育に資する講演会及び研修会を委託して実施した。

笠岡市 P T A 連合会 会員数 3,630 人

成 果

各団体を支援することで、社会教育や家庭教育に資する活動や研修等を実施することができた。

笠岡市子ども会育成連絡協議会や笠岡市婦人協議会では、少子高齢化や単組の退会等により会員数が年々減少しているが、現在の活動を縮小することなく維持することができ、地域における社会教育・生涯学習の推進に寄与した。

笠岡市 P T A 連合会とは業務委託を締結し講演会や研修会を開催することで、家庭教育の向上を図った。

課題・方向性

笠岡市子ども会育成連絡協議会は、事業を企画する立場である役員の固定化により事

業のマンネリ化が生じていることから、新たな子育て世代が参画する仕掛けづくりが必要である。まず、令和2年度に役員交代を予定しているので、今後の活動につながる体制を整備していきたい。

笠岡市婦人協議会においても、新たな会員が望めないことから会員数が減少しており、活動を継続していくには指導者や担い手の確保・育成が喫緊の課題である。3年前から始めた他市婦人協議会との交流研修会も婦人協議会にとって活動への刺激や新たな人間関係の構築になっているものの、具体的な取組につながっていない。

自己評価 C

各団体が例年取り組む活動に対しては支援・助言ができており、当初の年度計画どおり遂行してきており、各団体が実施する事業によって家庭教育・社会教育の推進が図られている。しかし、各団体が抱える事業のマンネリ化、人材不足といった問題の解決に至っていない。今後、各団体が継続的に活動するためには新たな人材の発掘、担い手の育成、事業のスクラップ・アンド・ビルドなど支援・助言の在り方を含めて検討する必要がある。

《 幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成》

点検・評価項目

文化財の保護・活用

担 当 課

生涯学習課

目 標

文化財を総合的に保護・活用するための基本構想を策定し、保護と活用の一体的な取組を進めていきます。

また、文化財と関わることで、地域への理解や愛着を深め、交流や連携を推進する契機となるような取組を実施します。

- ・文化財を総合的に活用するため、日本遺産認定を活かした地域活性化の取組を推進します。
- ・文化財保護・活用のマスタープランとなる歴史文化基本構想に基づき、一貫性を持って施策を実施します。
- ・史跡津雲貝塚の保存・活用に向けて、調査・指定を進めます。
- ・文化財及び笠岡市立郷土館の活用を図ります。
- ・郷土笠岡の歴史と文化を再発見する機会を提供します。

重 点 事 業

(1) 津雲貝塚調査保護事業【継続】

国史跡である津雲貝塚を保存し、後世に伝えるために、発掘調査成果及び過去100年の調査履歴を総括し報告書にとりまとめることで、重要な遺跡に関する情報の共有化を図り、以後の活用へと繋げた。

津雲貝塚総合調査報告書作成 300部

事 務 事 業

(1) 文化財の保護・活用事業

文化財の調査を行い、重要なものは指定・保護して後世に伝えるとともに、公開活用を促進することにより、文化の向上を図った。

- ・市指定天然記念物「井立のネズの木」樹木保護事業
- ・文化財保護事業補助金「真鍋島の走り神輿」神輿3基修繕

(2) 日本遺産推進事業

日本遺産を通じて地域の歴史的魅力を広く発信することで、郷土の良さを再発見する機会を提供するとともに、観光振興・地域活性化に資することができた。

- ・日本遺産認定「知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島」令和元年5月20日

- ・せとうち備讃諸島日本遺産推進協議会事業（映像・サイト・広報媒体制作，看板設置，ガイドマニュアル作成，認定記念シンポジウム開催，PRイベント参加）
- ・その他普及啓発事業（日本遺産ツアーガイド，各種書籍への掲載，笠岡市版パンフレット等作成）
- ・「神武東遷」日本遺産認定申請書提出

（3）文化財講座・郷土館企画展事業

笠岡市の歴史や優れた文化財を紹介することによって，郷土に関する理解を深め，学術及び文化の発展に寄与した。

- ・「文化財めぐりハンドブック」改訂版 市内小学生全員に配布 配布数約2,600冊
- ・文化財説明板設置「木々名古墳」（古代の丘スポーツ公園内）
- ・郷土館企画展開催「稲富稲荷神社拝殿建立200年」 入館者数231人

（4）笠岡ふるさと再発見事業

若い世代に笠岡の歴史・文化に触れる機会を提供することにより，笠岡の魅力を再発見してもらい，笠岡市への愛着を涵養した。

笠岡へもっと愛着を持ち隊 参加者数44人 レポート数195点

成 果

文化財の保護・活用事業では，文化財保護事業補助金交付要綱に基づいた初の補助事業として，長年の懸案であった「真鍋島の走り神輿」の神輿修繕を実施することができた。また，平成25年度から始まった津雲貝塚調査事業の最終年度として，総合調査報告書を刊行することができた。

日本遺産推進事業では「知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島」というタイトルで，笠岡諸島を含む備讃諸島の島々が日本遺産に認定された。認定初年度の取組として，人材育成，普及啓発，情報発信，調査研究の諸事業を，国庫補助を受けながら推進した。

郷土館企画展として「稲富稲荷神社拝殿」に関する展示を行い，身近な文化財の価値を見直す機会を提供した。また，「文化財めぐりハンドブック」を市内の小学生全員に配布した。

笠岡ふるさと再発見事業では，そのハンドブックを使用して，保護者と小学生が文化財や文化施設を訪れレポートを書くことで，郷土の歴史文化の魅力に気づく契機とすることができた。

課題・方向性

笠岡市の宝ともいえるべき重要な文化財については，各種補助金も活用しながら，引き続き保存・継承を図っていく必要がある。また，その前提となる情報収集，文化財の調査を継続することも必要である。

日本遺産推進事業では、まず市民に向けた普及啓発を進め、郷土の誇りとしての認識を広めていくことが、今後の発展につながるものと思われる。

文化財講座・郷土館企画展についても、市民のニーズをふまえながら積極的に実施することが望ましい。

笠岡ふるさと再発見事業は、地道な事業ではあるが、継続することが大切と考えており、引き続き実施していきたい。

自 己 評 価 A

津雲貝塚調査事業について 100 年来の課題であった、調査成果をとりまとめた総括報告書を刊行できたことは、大きな成果といえる。

平成 28 年度から開始した日本遺産研究事業の到達点として、日本遺産「知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島」の認定に至った。また、認定初年度にして各種事業を推進し、多くの方に笠岡諸島の歴史・文化の一端をお伝えすることができた。

文化財保護事業補助金の運用も始まり、市内の文化財保護活動にとって追い風となることが期待される。

点検・評価項目

竹喬美術館の活性化と館蔵品の充実

担 当 課

生涯学習課

目 標

市民のニーズを踏まえた魅力的で多様な企画展の開催や環境づくりにより、市民が何度でも訪れたい場所へと変革していきます。

- ・入館者数の増加を目指します。
- ・公共施設への絵画展示や各種イベントなどを通じて、市民が見る、知る、体験する場と機会を創出します。
- ・電子媒体の活用を促進します。
- ・収蔵竹喬作品を充実させます。
- ・収蔵機能を拡充します。

事 務 事 業

(1) 魅力的な展覧会の開催

市民が見る、知る、体験する場と機会を得られるようにした。文化向上を図った。

入館者数 17,656人（前年度入館者数 14,842人）

実 施 事 業	期 間	入場者数(人)
特別陳列 「蠢動 ―竹喬のまなざし―	4月1日～4月21日	530
特別陳列 「比庵さんが目指した 万葉の世界」	4月27日～6月30日	2,012
特別展 「生誕130年記念 小野竹喬のすべて」	7月6日～11月24日	11,368
特別陳列 「女を描く ―美醜を超えて―	11月30日～1月19日	1,523
特別展 「近代花鳥画の名手 菊池芳文」	1月25日～3月8日	1,929
特別陳列 「京都の日本画 ―大正時代を中心にして―	3月14日～3月31日	294

※入場者数は、令和元年度内の期間分をカウント

(2) 購入、寄贈、寄託の促進

見る、知る、体験する機会の増加と多様化を図った。文化向上を図った。

購入 4点

寄贈 4件 (28点)

寄託 2件 (2点)

(3) 美術品取得基金への積立金の確保

購入作品の候補を広げることで、見る、知る、体験する機会の増加と多様化を図った。文化向上を図った。

平成31年4月2日 寄附 (竹喬鑑定委員会から619,299円)

〈残額〉 1,946,532円

令和元年5月22日 美術品4点 (1,094,000円) の購入

①谷口香嶠《狩鞍図》

②谷口香嶠《正月凧遊図》

③谷口香嶠《子の日遊図》

④粥川伸二《娘》

〈残額〉 852,532円

令和2年3月31日末日 利息

〈残額〉 853,982円

令和2年3月31日末日

〈残額〉 853,982円

(4) 各種イベントの開催

見る、知る、体験する場と機会を得られるようにした。文化向上を図った。

美術講座、実技講座、ワークショップ等 (友の会行事も含む)

合計 25回、参加者合計 576人

	実施日	事業名	参加者数(人)
1	4月7日	楽しむ美術講座 ②『樹間の茜』	6
2	4月20日	講座『世界の美術・日本の美術』② ブリュッゲル(父) 絵画の多様性	23
3	4月27日 ～5月6日	竹喬美術館オリジナルクラフト (カレンダー手提げ) 31人 (42セット)	31
4	5月25日	講座『世界の美術・日本の美術』③ ウィーン世紀末美術の魅力	18
5	5月26日	講座『比庵さんと笠岡』	18
6	6月2日	楽しむ美術講座 ③『速水御舟の魅力』	8
7	6月22日	講座『世界の美術・日本の美術』④ 竹内栖鳳という存在～	17
8	7月7日	連続講演会 第1回 『竹喬 落款(サイン)と印章』	13
9	7月20日	講座『世界の美術・日本の美術』⑤ 神像の再評価ー八幡信仰との関連においてー	8

10	7月20日	第25回ギャラリーコンサート シャンソンとカンツォーネ	63
11	8月11日 12日	夏休みクラフト教室 (手提げ袋に竹喬作品の切り抜きを張る)	45
12	8月18日	実技講座『日本画にふれようー絹本に描く』	10
13	8月25日	連続講演会 第2回 『竹喬 模索から至純へのあゆみ』	48
14	9月15日	講座『世界の美術・日本の美術』① 土田麦僊を失った京都画壇	12
15	9月29日	講演会『日展の日本画』	31
16	10月13日	講座『世界の美術・日本の美術』② 西欧における風景画の誕生	18
17	10月19日	座談会『田中大氏と上菌館長による座談会』	80
18	10月20日	連続講演会 第3回 『作品の魅力ースケッチと下絵』	15
19	11月10日	講座『世界の美術・日本の美術』③ 近代日本画の市場動向	11
20	12月15日	講座『世界の美術・日本の美術』④ 北の造形	11
21	1月12日	講座『〈女〉を描くとは』	20
22	1月19日	講座『世界の美術・日本の美術』⑤ 霊山の神と仏	15
23	2月2日	講演会『近代日本画に果たした芳文の画業』	28
24	3月1日	講座『芳文ー作風の変遷をたどるー』	17
25	4月12日	講座『小野竹喬と国画創作協会』	10

※一部、令和2年度分含む

(5) 音声ガイドの充実

購入作品の候補を広げることで、見る、知る、体験する機会の増加と多様化を図った。文化向上を図った。

新たに、10点の作品解説を追加した。

(6) 所蔵作品の館外展示の取組

市民に作品を鑑賞する機会を提供することを目的に、所蔵作品のうち、館外展示によって美術館の運営に支障をきたさない作品を、笠岡市管理の公共施設の屋内に展示する取組を開始した。

令和2年3月31日時点で21箇所、104点を展示。

(7) 新収蔵庫建設の具体化

小野竹喬の作品，小野竹喬に関するもの，その他文化に寄与することができる作品を収集，保管及び展示し，教育，学術及び文化の発展を図った。

館内及び市民会館・図書館の空きスペース等，収蔵庫に改修する場合について検討した。

成 果

竹喬美術館では「生誕 130 年記念 小野竹喬のすべて」展を開催した。会期を画風の厳寒期を境に，前期(竹喬 模索の時代 1889-1938)後期(竹喬 至純の時代 1939-1979)に分け，模索の足跡から竹喬様式が確立されていくまでの過程を細やかに辿って紹介し，県内外から多数の入館者があった。

また，「近代花鳥画の名手 菊池芳文」展では，初の懐古展として，全国の美術班や研究者から注目され，館内アンケートでも満足度の高い内容となった。

美術講座，ワークショップ等を意欲的に開催し，見る，知る，体験する機会を提供した。

課題・方向性

美術館の入館者は 60 代以上が大半を占め，若年層の入館が少ないことが課題の一つである。美術あるいは日本画に造詣の深い鑑賞者だけでなく，地元にも美術館があること，文化勲章を受章した画家の生誕地であり，業績を顕彰する美術館があること，また，後世に偉業と財産を伝えるよう取り組んでいることを，特に若い世代に伝える必要がある。このため，竹喬とその周辺の画家，及び京都画壇を中心とする作品の企画展のみならず，高校生以下の児童・生徒を始め，若年層に美術館に親しんでもらえる企画を充実させる。

また，開館から 40 年近くが経過する中で，増加した作品を収蔵するスペースが不足する事態となっており，施設の長寿命化と合わせて収蔵庫の確保が大きな課題となっている。中期的，長期的なビジョンをもって，手法，費用等を検討する。

自己評価 B

令和元年度は「生誕 130 年記念 小野竹喬のすべて」を第 1 章，第 2 章と会期をわけて開催し，多くの入場者があったことは，竹喬作品を軸にした美術館としては喜ばしいことであった。それ以外の特別陳列，特別展の入場者は残念ながら一桁少なかった。美術館の企画に興味を持ってもらうとともに，繰り返し足を運んで見てもらえる展覧会を企画し，各種の体験事業を充実するには，まだまだ工夫が求められる。市民に広く知られ，地域が誇る美術館となるよう，さらなる努力が必要である。

点検・評価項目

芸術文化活動の振興・交流と担い手の育成

担 当 課

生涯学習課

目 標

市民参加による幅広い自主的な創作活動を促進し、若者の視点も踏まえて、優れた文化・芸術にふれあう機会を増やします。

- ・幅広い世代の多くの市民が、文化芸術活動に参加、鑑賞できる機会を増やし、文化祭・芸能祭をはじめとする文化事業の充実を図ります。
- ・国民文化祭継承事業としての小・中学生への能・狂言体験学習等、市民ニーズにあった文化活動を実施します。
- ・公益財団法人笠岡市文化・スポーツ振興財団と連携して総合的な文化活動を実施します。
- ・木山捷平文学選奨を通じて全国へ情報を発信するとともに、市民の文芸創作活動を奨励し、文化的風土を育みます。
- ・市民団体の主体的な活動に対し支援を行い、文化芸術の担い手を育成します。
- ・文化向上の拠点として、市民会館の維持・整備を行います。

事 務 事 業

(1) 文化事業の充実

芸術・文化活動の活性化により、知性と文化意識の高揚を図り、長期的な視点で文化的風土を育んだ。

事業名	令和元年度	平成30年度
笠岡市さつき・新緑展 (出品数)	111鉢	104鉢
(来場者数)	380人	397人
名月観賞の夕べ (来場者数)	520人	440人
笠岡市文化祭 (出品数)	364点	372点
(来場者数)	1,700人	1,900人
笠岡市芸能祭 (来場者数)	400人	400人
笠岡市菊花展 (出品数)	217鉢	250鉢
(来場者数)	1,900人	1,900人
笠岡市児童・生徒美術展 (出品数)	509点	528点
(来場者数)	2,300人	2,330人
笠岡市美術展 (出品数)	147点	152点

	(来場者数)	2,150人	2,560人
笠岡市写真展	(出品数)	127点	132点
	(来場者数)	412人	413人

(2) 能・狂言体験学習

小，中学生の伝統芸能への関心・理解を深め，豊かな情操を育むとともに，将来の文化活動を担う人づくりを推進した。

事業名	令和元年度	平成30年度
能体験学習	大島中学校 白石中学校 新山小学校	大島中学校 笠岡小学校
狂言体験学習	笠岡小学校 今井小学校 城見小学校 神外小学校	今井小学校 新山小学校 北川小学校 神外小学校

(3) 笠岡市木山捷平文学選奨

笠岡市出身の小説家木山捷平氏の業績を顕彰することで，文芸創作活動の活発化と，文芸創作活動をする市民の増加を図る。

項目	令和元年度	平成30年度
笠岡市木山捷平文学選奨（応募者数）	276 人	276 人
小中学生の部（短歌・俳句・川柳）	3,231 人	2,997 人
一般の部 （随筆・詩・短歌・俳句・川柳）	115 人	127 人

(4) 郷土文学者等顕彰事業

郷土の優れた文学者等を顕彰し，文学資料を整理・保存・展示することにより郷土の文学振興に寄与し，ひいては笠岡の魅力を広く発信した。

- ・森田思軒顕彰講演会「森田思軒と明治の新聞編集」 参加者数50人
- ・茅原基治船長顕彰パネル設置（笠岡市立図書館内）2枚

(5) 市民団体の文化活動への支援

青少年の文化活動の振興を促進するとともに，より一層の充実を図った。

令和元年度 3団体 平成30年度 5団体

(6) 市民会館運営事業

老朽化した施設の改修により、施設利用者の満足度を高めた。

令和元年度 管理棟2・3階トイレ改修（洋式化・バリアフリー化）
平成30年度 未実施

(7) 井笠鉄道記念館運営事業

地域住民の交通を支えてきた軽便鉄道に関する産業遺産の資料を収集、保管、展示し、もって地方文化の発展に寄与した。

- ・年間入館者数 2,999人
- ・冊子制作「現存する井笠鉄道の車輛」 500部 笠岡市井笠鉄道記念館にて販売

(8) 木山捷平生家管理事業

笠岡市に残る著名な先人の生家としては唯一とも言える木山捷平生家を保存・管理し、その業績を顕彰した。

- ・木山捷平生家維持管理事業 測量図作成及び維持修繕工事（床張替、風呂解体他）

成 果

笠岡市文化祭・芸能祭をはじめとした各種文化事業を実施していく中で、市民参加による文化振興事業の活性化を図ることができた。

能・狂言の体験学習では、参加した児童・生徒の伝統芸能への関心や理解を深めるとともに努力や繰り返すことの大切さなど多くのことを学ぶ機会の提供となった。

笠岡市木山捷平文学選奨は第15回となり、全国公募の短編小説は276作品（前年同数）、他部門は3,346人（前年+222人）で、木山捷平の偉業を全国に発信することができた。

青少年の文化活動への支援を通じて地域文化の高揚を図ることができた。

1973年に竣工した笠岡市民会館は施設・設備の老朽化がすすんでいたが、文化向上の拠点としての役割を發揮できるよう、利用者からの要望があったトイレの洋式化を実施し、環境整備を図った。

郷土の文学者等の顕彰をすすめることで、笠岡市の魅力と先人の功績を多くの方に伝えることができた。木山捷平生家の寄附を受けた維持管理事業の第一歩として、危険箇所の修理等を行うことができた。

課題・方向性

芸術文化活動については、幅広い世代の市民に参加・鑑賞できる機会を引き続き提供していくとともに、各団体が実施している事業への後援を進めていく。伝統芸能への支援事業は今後も継続して充実を図る。

木山捷平文学選奨事業についても、木山捷平の足跡を顕彰し、文芸搜索活動の活発化と、文芸創作活動をする市民の増加を図りたい。

文化施設の改修については引き続き計画的に実施し、文化向上の拠点としての役割を果たせるよう整備を行う。

木山捷平生家も、将来的な公開・活用に向けて整備を進めていく必要がある。

自己評価 A

芸術文化活動については、能・狂言の体験学習を実施し、伝統芸能への感心や理解を深めるとともに、努力する事の大切さを体験を通じて学ぶことができた。

第15回となった木山捷平文学選奨では、昨年を上回る応募者数となり安定的に推移しており、短編小説賞でも幅広い世代、全国からの応募となった。

市民会館の改修については、管理棟トイレの洋式化・バリアフリー化を実施し、利用者の満足度を高めることができたが、新型コロナウイルス感染症の影響でエレベーター及び蓄電池の改修が繰越事業となった。

木山捷平、森田思軒に続いて、茅原基治の顕彰を開始し、その功績について多くの方に伝えることができた。

点検・評価項目

カブトガニの保護とカブトガニ博物館の運営

担 当 課

生涯学習課

目 標

カブトガニが繁殖力を取り戻すまで、カブトガニ保護の活動を継続していきます。

また、子どものうちから干潟等の環境保全の重要性、健全な里海の保全とカブトガニ保護の意義を理解してもらうための多様な取組を行うとともに、カブトガニと博物館を活かした笠岡市のPRを行い、様々な機会を利用して全国に情報発信していきます。

- ・幼生を大量飼育し放流を行うことで、繁殖地内のカブトガニの増殖に取り組みます。
- ・カブトガニの生息状況を確認するため、定期的な調査を行います。
- ・カブトガニの生息環境を良好に保つため、繁殖地の保護を行います。
- ・博物館において魅力的な特別展を開催するとともに、積極的に情報発信し、入館者の増加を目指します。
- ・隣接する恐竜公園（屋外展示場）を各種イベントの開催など多目的な活用に使います。

事 務 事 業

(1) 幼生の飼育・放流事業

笠岡に生息するカブトガニが人の手を借りることなく、自然に繁殖力を取り戻すまで幼生を飼育し放流を行った。

- ・カブトガニ博物館による幼生放流

5月19日、5月30日、6月11日、6月26日、8月1日

夏目、東村、大殿洲東側

- ・一般募集による幼生放流 7月14日 100名 大殿洲東側
- ・カブトガニ保護少年団夏期研修会 7月31日 大殿洲東側
(笠岡東・笠岡西・金浦・大島・神島外中学校)
- ・自然体験学習「海辺の学校」

8月1日 小学生と保護者 40名 大殿洲東側

幼生放流数 計 5,811匹

(2) 繁殖地内での産卵・幼生・成体調査

カブトガニの生息状況を確認するため定期的な調査を行った。

産卵箇所数 12カ所

幼生調査 大殿洲東側 69匹、西大島新田 2匹、夏目 3匹、東村194匹

成体捕獲 26匹捕獲

(3) 監視活動，干潟・砂浜の保護活動

カブトガニの生息環境を良好に保つため，繁殖地の保護を行った。

保護監視活動 平成31年4月～令和2年3月 監視員5名 入浜者数 461名

保護啓発活動 5月25日 25団体 303人

リフレッシュ瀬戸内（笠岡市海岸クリーン作戦）7月7日 48団体 858人

(4) 特別展，特別陳列の開催

「天然記念物カブトガニ繁殖地」の自然環境，生息環境を守り，来館する多くの方々に自然とカブトガニを学ぶ機会を提供した。

特別展示 「川のいきもの展@笠岡」

開催月日 令和元年7月20日（土）～9月29日（日）

期間中の入館者数 68日間 21,502人

特別陳列 「造られたいきもの展」

開催月日 令和2年2月1日（土）～4月5日（日）

新型コロナウイルス感染拡大対策により，3月27日（金）で早期終了

期間中の入館者数 47日間 9,502人

(5) タッチングプール

海の生き物に直接触れることで，笠岡の海をより身近に感じていただき干潟等の自然環境保全の重要性を理解していただくことにつながった。

開催期間：令和元年8月1日（木）～9月29日（日）

開催期間中来館者数 18,893人

(6) 博物館のPR

博物館ホームページアクセス数の増加とともにSNSなどと連動して情報発信を行うことで博物館の魅力の向上を図った。

博物館のルート情報がGoogleマップの経路案内で利用可能となった。

また，SNSなどと連動し情報発信を行った。今後，増加が見込まれる外国人利用者向けに英文ガイドブックを新たに作成。

博物館ホームページ総ページビュー数 257,971回

(7) 寄附物品の受納

市内に工場を持つ，デュポン・スタイロ（株）から，スピノサウルス頭骨模型（1体）について，令和2年3月27日に寄附を受けた。カブトガニと同時代を生きた恐竜の模型を活用し，自然環境学習の教材としての展示物の充実を図った。

成 果

特別展では、市内の河川を中心に淡水生物の多様性や現状について解説することで自然環境への理解と生物の尊さを学ぶ機会を提供することができた。また、特別陳列では、人工的に造られたいきものたちを展示し、おもしろさや、自然史、古生物への興味を持たせるきっかけを提供することができた。特に、タッチングプールは、海の生き物に直接触れることで、笠岡の海をより身近に感じていただき、干潟等の自然環境保全の重要性を理解していただくことに繋げることができた。恐竜公園の活用については、他部局が主催する各種イベント（オータムクラフトマーケット、パン恐竜マルシェ等）と共催し、公園を多目的な活用にご供することができた。

課題・方向性

カブトガニ博物館には、これまでの役割に加え、調査・研究の充実、情報発信及び観光振興への貢献等の期待が高まっており、新たな運営の工夫が必要となっている。

自己評価 A

カブトガニの保護と博物館の運営については、カブトガニ繁殖地内における自然のカブトガニの個体数確保のため、引き続き幼生を飼育し放流を行っていく。企画展では、市内に生息する身近な淡水の生き物を生体展示し、改めて笠岡の清流（環境）を守る意識を高めることができた。また、施設面の改修では、屋外トイレの洋式化等、来館・来園者の安全性と利便性を図ることができた。

《 いつでも、どこでも、誰でも気軽に親しめる生涯スポーツの振興 》

基本施策	生涯スポーツの推進
担当課	スポーツ推進課

目 標

健康で生きがいを持った生活を送るための生涯スポーツ実施者の増加を図る。

事 務 事 業

(1) 各種スポーツ教室・大会の開催，地域スポーツ団体の支援・育成

初心者を対象としたスポーツ教室や誰でも参加できるニュースポーツ大会等を開催して，生涯スポーツの推進を図る。

①各種教室・大会の開催

教 室	対 象	令和元年度	平成 30 年度
バスケットボール教室	小学生	187 人	219 人
陸上競技教室	小学4年生 ～6年生	118 人	112 人
レスリング教室(マット教室)	小・中学生	165 人	62 人
軟式野球教室	小学生	81 人	73 人
サッカー教室	4,5歳児	176 人	65 人
テニス教室	18歳以上	65 人	48 人
卓球教室	18歳以上	－ 人	47 人
バドミントン教室	小4以上	90 人	121 人
卓球教室	小4以上	115 人	124 人
テニス教室	高校生以上	99 人	104 人
ソフトテニス教室	小学生	107 人	112 人
親子水泳教室	4歳～小学3年 生までの子ども と保護者	－ 人	68 人
かけっこ教室 (講師：坂本直子)	小学生	－ 人	72 人
野球教室 (講師：川相昌弘)	中学生	－ 人	70 人
卓球技術講習会 (講師：李一鳴)	小・中学生，高 校生，指導者	－ 人	86 人
バレーボール教室 (講師：岡山シーガルズ)	中学生	－ 人	20 人

シャフルボード講習会	制限なし	15人	50人
幼児スポーツ教室	幼児・園児	252人	340人
オリエンテーリング大会	制限なし	175人	200人
ニュースポーツ大会 (シャフルボード)	小学生以上	56人	98人

②地域スポーツ団体の支援・育成

団 体	令和元年度	平成30年度
スポーツ少年団	322人 (13団)	366人 (14団)
総合型スポーツクラブ	127人 (2団体)	146人 (2団体)

成 果

市民からの要望により、スポーツ教室の内容の充実や実施回数を増やすなどニーズに合わせて開催した。また、冬には一流選手を招いたトップアスリート教室等を開催する予定にしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催することができなかった。

(2) スポーツ推進委員活動の充実

研修により市民のスポーツリーダーであるスポーツ推進委員の資質を向上させるとともに、スポーツ推進委員が地域に出向いてニュースポーツ等の指導を行い、生涯スポーツの推進を図る。

①スポーツ推進委員の研修会開催

事 業	令和元年度	平成30年度
生涯スポーツ推進企画会議	6回	7回
実技研修会開催 H30 カーリング・キノホル・ペタンク R1 シャフルボード・ヘキサロン・タビニコ	3回	3回

②スポーツ推進委員派遣事業の拡大

事 業	令和元年度	平成30年度
地域派遣推進事業	37回 130人	48回 189人

成 果

生涯スポーツ推進企画会議を6回、実技研修会を3回行い、市民に対して実技の指導や助言を行った。また、全国・中国・県内の研修会へ積極的に参加し、専門的知識と指導力の向上を図った。

スポーツ推進委員を地域に派遣し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした、健康体操やニュースポーツなどのスポーツ・レクリエーションを推進した。近年は、いきいきサロンなど高齢者が激しい運動をすることなく、健康を維持できる体操やゲームなどの需要が高くなっている。また、平成30年度に引き続き新体力テストを開催し、市民の体力づくりの意識向上につなげた。

(3) スポーツ情報の提供

スポーツに関わる機会の提供を行うため、スポーツカレンダーの作成、市広報、ホームページを利用して、スポーツ団体、スポーツイベントの情報を発信する。

広報、新聞、テレビなどのメディアを使ってスポーツイベントの情報提供を行った。また、スポーツカレンダーを作成し、体育施設や公民館に配布するとともに、笠岡市のホームページへの掲載を行った。

成 果

様々な情報提供の形態を確立し、多くの人へのスポーツ情報の提供が可能となった。多くの手法により市民がスポーツ情報を入手しやすくなった。

課題・方向性

笠岡市において週1回以上運動やスポーツを行う人の割合は、国の目標値に達していませんが、その割合は少しずつ増加しており、改善傾向にある。

しかしながら、20歳代から50歳代までの週1回以上のスポーツ実施率は低くなっており、仕事等でスポーツに費やす時間取りにくくなっていると考えられる。これら現役世代が、運動やスポーツに親しむ習慣の普及のための環境整備や意識啓発が必要となっている。

このような状況から、生涯にわたりスポーツ活動が実践でき、気軽に参加できる、大会・行事・イベントの情報を提供するため、チラシやHP、SNS等を活用し伝達率を上げる必要がある。新体力テストについても引き続き実施し、市民一人ひとりが、自己の体力年齢を知ること、健康寿命の延伸につなげていく。また、大会等を開催するにあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の実施を徹底し、参加者の方々に安心して活動できるよう努める。

自己評価 B

スポーツ教室については、一定期間実施したものについては見直しを行い、新たな種目についても検討する。特に障がい者スポーツの競技について、新たに取り組む必要がある。

また、スポーツ推進委員の地域派遣については、競技人口の拡大のため広く地域住民に対してPRし、積極的な派遣を行う必要がある。

基本施策	競技スポーツの推進
担当課	スポーツ推進課

目 標

競技スポーツ人口の増加と競技力の向上を図る。

事務事業

(1) 各種スポーツ大会の開催（主催）

練習の目標として、練習の成果確認の場として、あるいは選手相互の研さんの場とするために各種スポーツ大会を開催する。

スポーツ大会の開催

大会名	令和元年度	平成30年度
笠岡市民スポーツ大会	1,623人	1,596人
べいふあーむ笠岡マラソン大会	－人	2,223人
カプトガニ駅伝大会	355人	358人
子どもソフトボール大会	7チーム	8チーム
青少年柔剣道大会	90人	78人
バドミントン大会	106人	144人

成 果

笠岡市スポーツ協会と共同開催により、各種大会を継続して行った。毎年多数の参加者により開催できている。

なお、べいふあーむ笠岡マラソン大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。

(2) 競技会等の支援

競技レベルを向上させる為に実業団やプロスポーツ選手の招へいや大会の支援を行う。

競技会名	令和元年度	平成30年度
べいふあーむ駅伝大会	23チーム	23チーム
宝くじスポーツフェア「はつらつママさんバレーボール in かさおか」	4チーム	－

成 果

宝くじスポーツフェア「はつらつママさんバレーボール in かさおか」を誘致し、オリンピックメダリスト等と地元のママさんバレーボールチームの親善試合やバレーボール教室を開催することで、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、競技者及び指導者のレベル向上に繋がった。また、べいふぁーむ駅伝(実業団)では、全国レベルの実業団駅伝を継続的に笠岡市で行うことで、競技者及び指導者のレベルの向上に繋がっている。

(3) スポーツ指導者の養成、トレーナースタッフの確保

全国大会等への出場を促進するため、高度な専門的知識と指導力をもつ指導者の養成と選手のコンディション維持を図るため、トレーニング指導や技術指導を行う機会を提供する。

① スポーツ推進委員協議会

日 時	開 催 名
R1. 6. 22～23	中国地区スポーツ推進委員研修会兼岡山県生涯スポーツ研究大会
R1. 9. 21	岡山県スポーツ推進委員初任者研修会
R1. 11. 14～15	全国スポーツ推進委員研究協議会
R1. 11. 30	岡山県スポーツ推進委員協議会備南支部研修会

② スポーツ少年団指導者協議会

日 時	開 催 名
R1. 8. 30～9. 1	スポーツ少年団認定員養成講習会 合計 8 名
R1. 9. 7～8	

成 果

各セクション別の指導者養成講習会等へ参加し、指導者及び選手の技術の向上を図った。

(4) 優秀選手の表彰

公益財団法人笠岡市文化・スポーツ振興財団と中国大会や全国大会、世界大会に出場する選手・団体に賞揚金を交付するとともに、全国大会以上の大会に出場の場合は激励会を開催する。また、県大会優勝・中国大会優勝・全国大会 3 位以内・世界大会入賞された選手には特別賞を贈呈する。

< 中国大会・全国大会等優秀選手の賞揚 >

令和元年度 13 団体 190 人 平成 30 年度 9 団体 191 人

<スポーツ特別賞>

令和元年度 3団体 34人 平成30年度 5団体 39人

内訳	件数	人数	備考
世界大会	個人 3	個人 3	ベンチプレス, BMX, パラスノーボード
全国大会	個人 33 団体 20 計 53	個人 45 団体 64 計 109	ウエイトリフティング, サッカー, レスリング, 軟式野球, サッカー, テニス, 陸上, ダンスドリル, 柔道, バドミントン, 卓球, ソフトボール, 吹矢, バレーボール, 新体操, 駅伝, ゲートボール, 野球, 少林寺拳法, 空手道
中国大会	個人 26 団体 10 計 36	個人 42 団体 36 計 78	ウエイトリフティング, サッカー, 軟式野球, 陸上, レスリング, 卓球, ゴルフ, テニス, バレーボール, 駅伝, バドミントン, ソフトバレー, 野球, ソフトテニス, 柔道
合計	個人 62 団体 30 計 92	個人 90 団体 100 計 190	

成 果

賞揚を受けた選手自身のレベルアップと意欲の高揚となるとともに、周辺関係者への刺激ともなり、競技スポーツの推進につながった。

(5) 笠岡市文化・スポーツ振興財団、笠岡市スポーツ協会等との連携

笠岡市文化・スポーツ振興財団、笠岡市スポーツ協会などと連携して各種大会、選手等の賞揚を行い、より広くスポーツ推進を展開する。

(1) 各種スポーツ大会の運営委託

(2) 各種スポーツ大会の共催・後援等

	大会名	参加人数
1	第10回カブトガニ杯グラウンド・ゴルフ交歓大会	900
2	第3回オタフクジュニアテニス大会	144
3	2019JBMXF シリーズ第1戦/西日本第1戦岡山大会	150
4	第53回全国軟式野球大会	320
5	第30回笠岡市グラウンド・ゴルフ協会 会長杯	170

6	第2回笠岡べいふあーむ杯グラウンド・ゴルフ交歓大会	170
7	聴覚障がい児・者交流卓球大会	200
8	春のキッズスポーツ祭	200
9	第22回ソフトバレーボール笠岡市文化・スポーツ振興財団杯	150
10	スポーツ&カルチャーまつり	700
11	Play&Stay 親子テニス教室	100
12	キッズスポーツフェスタ/第1回S&Lサマーフェスタ	1,900
13	第24回笠岡市ソフトバレーボール交流大会	250
14	第2回笠岡コスモス杯グラウンド・ゴルフ交歓大会	190
15	アクアスロン マナベシマカップ2019	90
16	ザグザグ杯 岡山県ミニバスケットボール交歓大会 Vol.36	1,500
17	第13回笠岡ロータリークラブ杯サッカー大会	1,000
18	ファミリーウォーキング大会 in 笠岡湾干拓2019	1,000
19	夢あきらめなければ100%～子ども達の未来のために～	150
20	OHK杯第34回 岡山県ミニバスケットボール選手権大会	1,500
21	第4回ミズノ杯グラウンド・ゴルフ交歓大会	200
22	第8回笠岡市長杯グラウンド・ゴルフ交歓大会	200
23	2019年度岡山県高等学校野球一年生大会	—
24	S&C オータムフェスティバル	500
25	秋のキッズスポーツフェスタ	1,000
26	第31回笠岡市グラウンド・ゴルフ協会結成記念杯 グラウンド・ゴルフ交歓大会	200
27	第25回笠岡市文化・スポーツ振興財団杯ペタンク大会	32
28	第27回笠岡市文化・スポーツ振興財団杯 グラウンド・ゴルフ交歓大会	180
29	第4回おかやまスポーツフェスティバル	—
30	第31回笠岡市教育委員会杯グラウンド・ゴルフ交歓大会	150
31	笠岡東ロータリークラブ少年剣道大会	120
32	第1回少林寺流 錬心館 岡山県空手道選手権大会	180
33	S&C 冬のフェスティバル/冬の体験フェスタ	500
34	第24回笠岡市近隣ソフトバレーボール大会	250
35	第21回ソフトバレーボール夏季交流大会(第7回他県交流大会)	250
36	第53回笠岡市民スポーツ大会グラウンド・ゴルフ交歓大会	180
37	第4回笠岡市長杯ダブルス大会	100
38	第12回笠岡市ミニバスケットボール強化大会	400

(3) 全国大会出場者（団体）激励会の開催

(4) 全国大会等功績者の特別表彰

成 果

笠岡市文化・スポーツ振興財団，笠岡市スポーツ協会等と連携する事により多様な大会を開催し，広くスポーツ推進を展開した。また，多くのスポーツ功労者の賞揚ができ，選手の支援や競技スポーツの振興に寄与した。

課題・方向性

関係団体とさらに連携を密にし，選手への支援，スポーツ指導者の養成，大会の開催・誘致に取り組み，競技スポーツの推進を図る必要がある。

新型コロナウイルス感染拡大の影響から，年度末付近の行事が中止となり，次年度にも引き続き影響が及ぶものと想定されるが，感染防止対策をしっかりと実施し，拡大を防いでいきたい。

自 己 評 価 B

多種多様なスポーツ大会実施の後押しや優秀選手等を賞揚することにより，スポーツに対する市民意識をさらに高めることができた。今年度から，全国大会等出場者の懸垂幕掲揚から，本庁舎壁面へのパネル掲示に切り替えたことで，付近通行者に見やすく，また経費の削減にもつながっている。今後は競技力の向上に向けた取り組みをさらに進めていきたい。

基本 施策

スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と活用

担 当 課

スポーツ推進課

目 標

いつでも・どこでも・だれでも快適にスポーツが行える環境を整える。

事 務 事 業

(1) 利用しやすい環境の整備

老朽化した施設や設備の修繕，利用者から要望が出ている事項の改善を行い，快適なスポーツ環境の整備に努める。

事業名	事業費
陸上競技場備品購入	3,071 千円
笠岡総合体育館女子トイレ便座取替工事	67 千円

成 果

陸上競技場の備品を更新するなど，利用者が快適かつ安心して施設を利用できるようになった。

課題・方向性

どの施設も老朽化が進んでおり，また，利便性の向上を図るべき施設も多い。新しい競技への改修の検討も含め，今後も計画的に整備を行う必要がある。

老朽化の度合，危険性，利便性など勘案し，優先順位を明確にした上で，整備・改修を行いたい。

自己評価 A

大規模改修施設について，長寿命化対策を図りながら，安全で快適な施設を維持していくため，今後も計画的に整備を実施する。

Ⅲ 評価委員の総合評価

丹 生 裕 一 委 員

「令和元年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書」には、教育委員会の運営状況、教育委員会が管理執行する事務の内容の他に、教育行政の基本理念を支える四つの基本方針に沿った16の基本施策毎の具体的な内容と成果、課題と方向性、自己評価が明示されている。これを見ると、笠岡市教育委員会の事務管理・執行状況は、多くの基本施策において少しずつ、あるいは相当に成果を上げていることを確認することができ、総合的に見て目標は「おおむね達成された」と評価することができる。

続いて、一層の教育行政成果を期待し、今後の主要な課題・改善点を指摘する。

1 「『学び』『育ち』をつなぎ自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進」について、教育委員会や学校は、将来の小中一貫教育推進計画を推進しながらも、学校教育の現状の改善という真の目的を見失わず、改革を断行しようとする姿は評価できる。例えば、小・中学校 ICT 環境整備事業、中学校市費非常勤講師配置事業、若手教員研修会、就学前SSW 配置事業等である。

令和元年度の「学校教育の充実」にかかる基本方針設定の重点は「自立した子どもの育成」であることは明らかである。令和元年度岡山県学習状況調査の結果を見ると、自己肯定感や自己有用感に関する質問項目の値は、昨年度と比較して向上し、岡山県全体の数値に対しても遜色ない。ところが、学習状況に関する質問項目の結果を見ると、授業以外の学習時間の平均は県全体に対して大きく上回ったものの、それを自分で計画して勉強している子どもの割合は県全体を依然として明確に下回っている。「自立した子どもの育成」は道半ばであると判断せざるを得ない。自ら判断し自ら行動する素養を育むためには、“大人が外からやらせる取り組み”は機能せず、“子どもに、やりたい、やってよかったと思わせる取り組み”が必要となろう。この点に関して、2年間の指定を受けた北川小学校における実践研究の成果が、どのように他の小・中学校、および保育・幼稚園の教育実践に活かされているのか、報告書に記述がなかったのは残念である。

2 「市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進」について、地域において、協力を期待できる人材の不足、ならびに組織の弱体化という構造的な問題を抱えながらも、教育委員会が奮闘している様子をうかがうことができる。特に公民館等講座や図書館事業では積極的な推進が行われている。出前講座の種類拡大、図書館の職員の増員等の工夫により年度終盤のコロナ感染拡大の影響にもかかわらず、利用者数が伸びている。

地域ぐるみの教育支援や社会教育に関しては、先に述べた地域の課題に加えて、小中一貫教育推進計画を見据え、各課が連携を図りながら、思い切った事業や組織の再編成を先取りしてすすめていただきたい。

3 「幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成」について、笠岡市には、文化芸術に関する魅力的な財産、施設、事業等がある。それらを、維持・保護していくだ

けではなく、積極的に普及・活用していく取り組みが続いていることを評価したい。特に竹喬美術館やカブトガニ博物館における魅力的な企画のチャレンジは、試行錯誤しながら今後も推進していただきたい。

4 「いつでも、どこでも、誰でも気軽に親しめる生涯スポーツの推進」については、環境整備や市民の意識啓発の取り組みが一定の成果を上げているようである。しかしながら、ここでも、生涯スポーツを推進する指導者の不足や組織の弱体化という難しい課題を避けて通ることはできないと思われる。このことについて、小中一貫教育推進計画を、地域スポーツ団体の組織再編の一つのきっかけにできないだろうか。各課が連携して執行のタイミングを合わせるべく計画を進めることで、無理や無駄を省くことができよう。例えば、金浦中学校区の小・中学生は一つの場所に集うことになる。ここに、従来の部活動に代わるような、年代を広くカバーし、種目を整理・統合した形の新たなスポーツ団体を市が主導・協力して立ち上げる等である。検討をお願いしたい。

廣 井 滋 季 委 員

「令和元年度 教育に関する事務の管理・執行状況の点検・評価報告書」では、教育委員会の運営状況、教育委員会が管理・執行する事務の自己評価がされており、自己評価は適正と考えます。

教育行政基本方針・基本施策では、四つの基本方針に沿った16の基本施策執行について、基本施策の「目標」が示され、施策執行後の点検に基づく「課題・方向性」と「自己評価」がされており、「教育振興基本計画」に基づくPDCAサイクルが確実に回されていると評価することができます。「自己評価」もおおむね適正に評価されていると考えます。

基本施策毎の報告により、全体的に少しずつ成果が上がっていると確認でき、教育に関する事務の管理・執行状況は総合評価として、おおむね目標を達成できたと考えます。

続いて、気になる基本施策について感じた事を述べさせていただきます。

《「学び」「育ち」をつなぎ自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進》

重点施策として取組んでいる3つの育成を図る施策の中で、補充学習の人材確保と家庭学習の充実は昨年度も課題として挙げられています。取組の継続と一層の努力が必要と思われませんが、取組のやり方の修正も考える必要があると考えます。

同じように自己肯定感・自己有用感を高める取組みやキャリア教育の充実の必要性も、昨年度からの課題です。事業の内容面の修正を考える必要性を感じます。

「郷土愛の育成」は大切な取組と考えますが、子ども達には地元を愛する気持ちに根付いた「外」を見る目も養って欲しいと考えます。

小中一貫教育及び学校規模適正化の実施は、目標にあるように、まず子ども達の将来を第一に考えて、小中一貫教育の推進と学校規模適正化を実施していただきたい。それから、教職員の意識熟成や一貫教育カリキュラムの導入に向けての検討や策定を、遅滞なく進めていただきたいと思えます。

《市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進》

「たくましい笠岡っ子事業」は、郷土愛の育成の観点からもさらに参加者が増えるよう取組んでいただきたい。

市民団体の団体数や会員数が減少していくなかで、活動だけでなく団体そのもののスクラップ・アンド・ビルドも市民目線で考える必要性を感じます。

《幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成》

文化芸術の担い手の育成には若い世代を対象にした見る・知る・体験する機会を増やす必要性を感じます。特に、竹喬美術館の活性化には、日本画になじみが薄いと思われる若い世代に見る・知る・体験する機会の拡大が必要と考えます。

《いつでも、どこでも、誰でも気楽に親しめる生涯スポーツの振興》

基本施策である3つの点検・評価項目において、前年度と同じような課題・方向性が挙げられています。新型コロナウイルス感染症の影響で実行できなかった取組が多かったと思いますが、これをチャンスととらえて、取組を継続するかどうかを考えるきっかけとしてはどうかと考えます。

最後に、事務の管理及び執行状況の点検・評価を報告書としてまとめることも大事ですが、点検・評価を次年度の取組に十分反映されることが大事なことと考えます。

「令和元年度 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書」に基づいた担当部署からの説明を受けて、点検・評価については適正に行われており、総合評価としては「目標を概ね達成された」と判断しました。

以下報告書および説明から感じたことを述べさせていただきます。

1 教育委員会の運営状況、教育委員会が管理・執行する事務について

運営状況については、定例・臨時の15回の会議や総合教育会議での市長との意見交換、市議会への出席など、笠岡市の教育課題に真摯に取り組まれていると思います。特に、総合教育会議において令和10年4月までに3ブロックに施設一体型小中一貫教育校を整備すること等の方針が示されたことはたいへん評価できると思います。令和10年4月にむけての計画と市民への説明がより大切になってくると思います。

2 《「学び」「育ち」をつなぎ自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進》について

学校現場の教育課題を解決するために様々な取り組みが行われており、その成果と課題、評価も妥当なものと思います。多忙な学校現場を解消して、少しでもゆとりを持たせることが課題解決には必要だと思います。教諭の数を増やせない現状で、教職員の負担軽減のために支援員・非常勤講師を配置することは評価できると思います。限られた予算の中でたいへんと思いますが、今後も各学校の状況にしっかり対応していただきたいと思います。

小中一貫教育及び学校規模適正化の実施については、引き続き保護者・地域住民への周知・理解を図るとともに、県教育委員会の支援を求めながら小中一貫教育が保護者・地域住民だけでなく教職員にとっても魅力的なものになることを期待しています。

学校施設等の整備については、空調設備設置事業が幼・小・中の全てで設置済みになったことは評価できると思います。災害の中でも、子どもの安全・安心を確保できるように、今後も設備面でも運用面でもしっかり取り組んでほしいと思います。

3 《市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進》について

多くの事業で工夫しながら取り組んでいるのは評価できます。また「社会教育に取り組む市民や団体との協働と支援」の自己評価で記されているとおり、人材の発掘と担い手の育成はどの事業においても今後の共通の課題であると感じています。

4 《幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成》

どの事業においても、見る・知る・体験する機会を提供するように取り組まれており、たいへん評価できると思います。そして、ここでも課題は文化芸術の担い手の育成かと思います。小学生・中学生を育てる取り組みの継続をお願いしたいと思います。

5 《いつでも、どこでも、誰でも気軽に親しめる生涯スポーツの振興》

さまざまなスポーツ教室を開催することで小学生・初心者にスポーツをする機会を与え、スポーツに親しむ人を増やしていると思います。今後もこの取り組みを進めて欲しいと思います。また多くの市民へのスポーツ情報の提供ができるようになったことは評価できると思います。ニュースポーツを生涯スポーツの柱とするならば取り組みの工夫が必要かと思います。

IV 資料

令和元年度 教育関係決算総括表

歳 入

(単位：千円)

款	R元年度 決算額A	H30年度 決算額B	比 較	
			額 (A-B)	率(%)
12 分担金及び負担金	4,005	3,982	23	0.6
13 使用料及び手数料	50,586	51,945	△ 1,359	△ 2.6
14 国庫支出金	57,748	41,731	16,017	38.4
15 県支出金	27,896	20,263	7,633	37.7
16 財産収入	114	315	△ 201	△ 63.8
17 寄附金	4,447	5,216	△ 769	△ 14.7
18 繰入金	152,886	71,384	81,502	114.2
20 諸収入	32,568	34,528	△ 1,960	△ 5.7
21 市債	249,900	214,700	35,200	16.4
一般財源	1,900,152	2,253,354	△ 353,202	△ 15.7
合 計	2,480,302	2,697,418	△ 217,116	△ 8.0

歳 出

(単位：千円)

款・項	R元年度 決算額A	H30年度 決算額B	比 較	
			額 (A-B)	率(%)
01 教育費・教育総務費	300,746	286,203	14,543	5.1
02 教育費・小学校費	552,323	508,266	44,057	8.7
03 教育費・中学校費	259,657	225,485	34,172	15.2
04 教育費・幼稚園費	280,521	261,024	19,497	7.5
05 教育費・社会教育費	619,511	930,461	△ 310,950	△ 33.4
06 教育費・保健体育費	467,544	485,979	△ 18,435	△ 3.8
教育関係合計	2,480,302	2,697,418	△ 217,116	△ 8.0

◎ 小学校児童に係る経費の調べ

科目		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	対前年比率	備考	
		決算額	決算額	決算額	決算額	決算額	決算額			
主な経費	児童報償費	決算(千円)	35	31	31	31	117	173	147.9	卒業記念
		1人当たり(円)	85	84	81	82	339	459	135.4	
	消耗品費	決算(千円)	22,859	40,814	27,621	24,609	30,157	31,047	103.0	
		1人当たり(円)	9,995	18,435	12,414	11,346	14,279	14,679	102.8	
	燃料費	決算(千円)	3,783	2,407	2,626	2,763	1,679	944	56.2	
		1人当たり(円)	1,654	1,087	1,180	1,274	795	446	56.1	
	光熱水費	決算(千円)	32,469	30,583	29,587	31,483	32,374	31,532	97.4	
		1人当たり(円)	14,197	13,813	13,298	14,515	15,329	14,909	97.3	
	修繕料	決算(千円)	12,957	12,719	11,867	10,654	13,392	10,751	80.3	
		1人当たり(円)	5,666	5,745	5,333	4,912	6,341	5,083	80.2	
	プール維持 管理費	決算(千円)	6,102	6,283	7,238	6,421	5,153	6,093	118.2	
		1人当たり(円)	2,668	2,838	3,253	2,960	2,440	2,881	118.1	
	校務員業務 委託料	決算(千円)	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700	2,725	100.9	
		1人当たり(円)	1,181	1,220	1,213	1,245	1,278	1,288	100.8	
	図書購入費	決算(千円)	5,569	5,289	4,962	4,893	5,471	5,577	101.9	
		1人当たり(円)	2,435	2,389	2,230	2,256	2,590	2,637	101.8	
教材備品 購入費	決算(千円)	14,962	17,199	15,795	12,659	16,509	14,987	90.8	テレビ プロジェクター 実物投影機 パソコン	
	1人当たり(円)	6,542	7,768	7,099	5,836	7,817	7,086	90.7		
豊かな心を 育む総合推 進事業	決算(千円)	1,836	1,862	1,888	1,834	1,759	1,697	96.5		
	1人当たり(円)	803	841	849	846	833	802	96.3		
施設維持 改良工事費	決算(千円)	18,389	27,991	15,227	17,438	17,616	12,531	71.1		
	1人当たり(円)	8,041	12,643	6,844	8,040	8,341	5,925	71.0		
学校建設費	決算(千円)	326,175	213,327	194,277	150,901	180,348	192,885	107.0	空調設備実施設計・ 工事費	
	1人当たり(円)	142,621	96,354	87,316	69,572	85,392	91,199	106.8		
小学校費	合計(千円)	572,180	497,047	520,754	441,530	508,266	552,323	108.7		
	1人当たり(円)	250,188	224,502	234,047	203,564	240,656	261,146	108.5		

児童数(人)	2,287	2,214	2,225	2,169	2,112	2,115	100.1
6年生(人)	413	369	383	379	345	377	109.3

※ 児童数は5/1現在の人数。

◎ 中学校生徒に係る経費の調べ

科目		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	対前年比率	備考	
		決算額	決算額	決算額	決算額	決算額	決算額			
主な経費	生徒報償費	決算(千円)	126	136	120	109	180	234	130.0	卒業記念
		1人当たり(円)	323	317	316	310	573	701	122.3	
	消耗品費	決算(千円)	12,999	13,272	19,563	13,265	13,330	15,313	114.9	
		1人当たり(円)	10,833	11,461	18,721	13,318	13,644	15,934	116.8	
	燃料費	決算(千円)	1,234	801	625	708	617	555	90.0	
		1人当たり(円)	1,028	692	598	711	632	578	91.5	
	光熱水費	決算(千円)	18,668	17,677	18,211	19,528	19,424	19,404	99.9	
		1人当たり(円)	15,557	15,265	17,427	19,606	19,881	20,191	101.6	
	修繕料	決算(千円)	8,418	6,267	5,770	6,706	7,234	5,490	75.9	
		1人当たり(円)	7,015	5,412	5,522	6,733	7,404	5,713	77.2	
	プール維持 管理費	決算(千円)	1,010	1,017	1,007	1,041	1,143	1,132	99.0	
		1人当たり(円)	842	878	964	1,045	1,170	1,178	100.7	
	校務員業務 委託料	決算(千円)	1,600	1,715	1,715	1,715	1,600	1,615	100.9	
		1人当たり(円)	1,333	1,481	1,641	1,722	1,638	1,681	102.6	
	図書購入費	決算(千円)	4,281	3,534	3,177	3,197	3,322	3,287	99.0	
		1人当たり(円)	3,568	3,052	3,040	3,210	3,400	3,420	100.6	
教材備品 購入費	決算(千円)	6,002	10,859	7,328	8,725	7,998	9,813	122.7	テレビ プロジェクター 実物投影機 パソコン	
	1人当たり(円)	5,002	9,377	7,012	8,760	8,186	10,211	124.7		
豊かな心を 育む総合推 進事業	決算(千円)	944	969	914	885	873	850	97.4		
	1人当たり(円)	787	837	875	889	894	884	98.9		
施設維持 改良工事費	決算(千円)	12,976	14,697	9,598	9,293	9,883	15,641	158.3		
	1人当たり(円)	10,813	12,692	9,185	9,330	10,116	16,276	160.9		
学校建設費	決算(千円)	68,153	152,654	143,586	55,792	20,336	0	0.0	耐震補強工事 空調設備設置工事	
	1人当たり(円)	56,794	131,826	137,403	56,016	20,815	0	0.0		
中学校費	合計(千円)	253,308	336,604	340,062	255,727	225,485	259,657	115.2		
	1人当たり(円)	211,090	290,677	325,418	256,754	230,793	270,195	117.1		

生徒数(人)	1,200	1,158	1,045	996	977	961	98.4
3年生(人)	390	429	380	352	314	334	106.4

※ 生徒数は5/1現在の人数。

◎ 幼稚園児童に係る経費の調べ

幼稚園配当予算

科 目		H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	対前年比率	説 明	
報償費	決算(千円)	0	0	0	0	0	0	—		
旅費	決算(千円)	216	248	215	191	284	225	79.2		
需用費	消耗品費	決算(千円)	2,142	1,944	1,773	1,787	1,908	1,968	103.1	教師用含む
		1人当たり(円)	8,176	7,967	8,324	8,935	10,314	12,615	122.3	
	燃料費	決算(千円)	798	512	361	361	180	141	78.3	
	食糧費	決算(千円)	9	9	9	9	10	10	100.0	
	印刷製本費	決算(千円)	74	62	37	47	48	50	104.2	
		1人当たり(円)	282	254	174	235	259	321	123.9	
	修繕料	決算(千円)	86	137	92	63	118	42	35.6	
小計	決算(千円)	3,109	2,664	2,272	2,267	2,264	2,211	97.7		
役務費	通信運搬費	決算(千円)	28	27	28	23	23	21	91.3	
		1人当たり(円)	107	111	131	115	124	135	108.9	
	手数料	決算(千円)	173	173	144	148	136	147	108.1	
小計	決算(千円)	201	200	172	171	159	168	105.7		
備品購入費 (図書購入費)	決算(千円)	987	978	920	1,017	1,088	1,060	97.4		
豊かな心を 育む総合推 進事業	決算(千円)	317	302	255	233	218	199	91.3		
	1人当たり(円)	1,210	1,238	1,197	1,165	1,178	1,276	108.3		
計	予算(千円)	4,830	4,392	3,834	3,879	4,013	3,863	96.3		
園児数(人)		262	244	213	200	185	156	84.3		

教育総務課関係

通信運搬費	決算(千円)	704	705	661	593	602	587	97.5	
光熱水費	決算(千円)	3,139	3,452	3,659	4,372	4,995	4,676	93.6	
校務員業務 委託料	決算(千円)	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,110	100.9	
修繕料	決算(千円)	1,889	1,818	1,697	1,944	1,769	1,704	96.3	
施設維持改 良工事費	決算(千円)	2,969	2,470	2,689	2,581	1,670	6,803	407.4	
図書購入費	決算(千円)	0	0	0	0	0	0	—	幼稚園配当へ
備品購入費	決算(千円)	1,415	1,678	1,568	2,897	2,722	2,525	92.8	
園建設費	決算(千円)	670	12,556	10,436	24,295	8,583	0	0.0	空調設備実施設 計・工事費
計	決算(千円)	11,886	23,779	21,810	37,782	21,441	17,405	81.2	

※ 園児数は5/1現在の人数。

令和元年度の主な事業

(単位：千円)

区分	事務・事業名	決算額	備 考
教育費 2,480,302	スクールポート運営管理事業	15,432	高島、白石島、六島の児童・生徒の通学
	療養補償事業	498	嘱託職員の公務災害補償
	一貫教育推進事業	3,548	小中一貫教育推進計画の策定 小中一貫教育カリキュラム(国・算(数)・社・理)の試作版を作成し市内の各校へ配布。教職員対象の視察や研修会を行った。
	外国語指導助手配置事業	43,688	生きた英語を親しみやすく児童生徒に伝えるため外国語指導助手(ALT)を小・中学校に9名配置
	教育活動支援事業	32,060	幼・小・中学校へ非常勤支援員44名を配置
	いじめ・不登校対策総合推進事業	12,391	不登校対策支援事業(11名配置) 巡回カウンセラー等配置事業(5名配置)教育相談室 いじめ対策支援員1名(学校教育課に配置)ほか
	就学前からのスクールソーシャルワーカー活用実践研究事業	543	就学前からのスクールソーシャルワーカー(1名配置) 問題行動等の未然防止の充実に図るため、就学前からの早い段階関係機関等と連携しながら対応を行った。
	豊かな心を育む総合推進事業	2,746	学校・園の創意工夫により総合的な学習の時間やクラブ活動、学校行事等を講師を迎えて体験学習を行ったり、特色のある教育活動を実施。
	英語教育推進モデル事業	3,614	小学校英語教科化に向け、タブレットPC、英語教育ソフトウェア、システム等を整備
	小・中学校指導者用デジタル教科書整備事業	3,933	全小学校において、平成27年度改訂の国語、算数、理科、社会の教科書に準拠した指導者用デジタル教科書を整備 全中学校において、平成28年度改訂の国語、数学、理科、社会、英語の教科書に準拠した指導者用デジタル教科書を整備
	理科観察実験アシスタント配置事業	3,063	笠岡小・中央小・金浦小・城見小・大井小・吉田小・北川小・大島小・神内小に理科支援員3名を配置
	校務支援システム活用事業	9,918	児童生徒の出欠席、成績処理等が全小・中学校で運用となり、情報の共有化および校務の簡素化が図られた
	要保護及び準要保護児童生徒援助費補助事業	43,463	小学校学用品等10,045、中学校学用品等11,463 給食費21,955
	特別支援教育就学奨励事業	2,141	小学校学用品等356、中学校学用品等449、給食費1,336
	小学校における不登校対策実践研究事業	3,861	児童に対する登校支援や保護者等への相談支援 登校対策支援員5名配置(笠岡小・中央小・金浦小・大井小)
	授業改善・学力向上のためのデジタル教材等整備事業	2,281	クラウド上で活用できるドリル教材を整備し、運用。より効果的活用を図るために、各校の情報教育担当者に研修会を開催
	小・中学校コンピュータ室等活用事業	5,116	小・中学校のコンピュータ室、特別教室、全普通教室のコンピュータ・ソフトウェア・その他周辺機器を活用 小・中学校をインターネットで結び、教育ネットワークを活用
	新学習指導要領に対応したICT環境整備事業	33,523	市内小・中学校において、新学習指導要領に対応した授業を実施するため、学習者用パソコン(3クラスあたりに40台セット)と授業支援システム、無線LAN環境を整備
	放課後学習サポート事業	2,262	小・中学校に、その日の授業に関連した補充学習等を非常勤講師や教員OB、地域の識者等を指導者とし、各学校の実態に応じて週1回、各1時間程度実施
	小学校「かさおかホリデーチャレンジ学習支援」事業	1,028	全16小学校区において、地域の指導者等を講師に、月1回程度、補充的・発展的な学習を実施
	中学校「いきいきチャレンジたいけん」事業	172	市内中学校の2年生が、学区内の事業所、施設等で職場体験活動やボランティア体験活動を実施 参加生徒数 332人
	ICT支援員配置事業	37,984	小・中学校等に学校ICT支援員6名を配置し、月4回技術支援・校務支援・授業支援等の様々なサポートを実施
	落ち着いた学級づくり支援事業	488	小学校5年生および中学校1年生を対象に、総合質問紙「アイチェック」を年2回実施
	学校連携のための情報ツール整備事業	2,354	教育委員会事務局と学校との電子データ共有化をスムーズにするためにグループウェア「ミライム」を活用
	中学生学力向上に向けた検定チャレンジ	1,098	漢検・英検・数検の受検料を各1回補助することで、自主的・積極的に学習に取り組む力を身につけ、学習意欲の向上を図る
	中学校道徳授業拠点事業	351	特別講師を招いた校内研修を通して、新学習指導要領の内容の理解や道徳の授業の進め方を習得し、授業研究を通して道徳の授業力を高めた。

令和元年度の主な事業

(単位：千円)

区 分	事務・事業名	決算額	備 考
	JAF心のプロジェクト「夢の教室」	415	「夢先生」を迎え、実体験に基づく話やゲームを通して、フェアプレー精神や協力することの大切さ、夢を持つことの素晴らしさなどを学ぶ。
	特別支援学級における児童生徒用タブレットパソコン整備事業	4,587	特別支援学級にタブレットパソコンや視覚的な支援の充実を図るために大型モニターを導入し、個別学習や支援を行った。
	井戸平左衛門賞	58	「井戸平左衛門」という歴史上の偉人と非常に縁に深い大田市との文化交流を通じて、相互の魅力や価値を高めた。参加生徒は「井戸平左衛門」を受賞した生徒で、大田市の中学生を笠岡に招き笠岡の魅力を伝えた。
	笠岡市大田市中学生交流事業	453	前年に井戸平左衛門賞で表彰され大田市に招かれ交流を活動を行った中学生が、今度は大田市の生徒を招き北木島に渡り、寝食を共にし交流を深めた。
	部活動指導員配置事業	1,001	教員の勤務負担軽減と部活動の活性化を図るため、笠岡東中学校のバレー部と柔道部とサッカー部、笠岡西中学校の美術部へ1名ずつ部活動指導員を配置した。
	人権教育自立促進事業	721	教育上配慮を必要とする幼児・児童・生徒の自立を支援
	教育相談事業	14,968	児童・生徒及びその保護者等に対して相談、助言及び援助を実施 相談員4名配置
	図書整備事業	9,925	小学校(5,577)、中学校(3,287)、幼稚園(1,060)
	教員業務アシスタント配置事業	18,803	教員が抱える事務作業等の負担を軽減するため配置(8名) 今井小(兼)新山小、金浦小、吉田小、北川小、神内小、城見小 新吉中、大島中
	校務員配置事業	5,450	幼・小・中学校の校務員業務(草刈・小修繕等)を委託
	通学バス運行委託料	7,495	大島小、吉田小及び北木小の児童の通学
	教育施設法廷点検委託料	6,358	学校施設の老朽化・危険箇所を把握するため点検を実施 中央小、新山小、北川小、神内小、神島外小、北木小 笠岡西中、大島中、神島外中
	大島小学校整備事業	6,509	教室不足のため、屋外トイレを解体後、仮設教室を 長期継続契約により整備 解体工事(1,242) 賃借料(6,509)
	笠岡小学校仮設ステージ設置事業	6,094	貴閣行動の老朽化に伴い施設利用が中止になったため、学校行事に必要な設備を整備
	ブロック塀安全対策事業 (H30繰越明許)	33,445	ブロック塀改修工事 中央小、新山小、大島小、新吉中、北木中
	営繕関係	32,069	大島小 教室設置関連工事、城見小 図工室改修工事 金浦中 体育館照明器具更新工事、笠岡東中 トイレ洋式化 ほか
	教材備品整備事業	24,800	小学校(14,987)、中学校(9,813)
	園・学校施設空調設備設置工事 (H30繰越明許)	186,080	陶山小、北川小、新山小、吉田小、神内小、今井小 北木小、真鍋小、六島小
	中央小学校屋内運動場トイレ 改修工事	10,213	トイレ改修工事 建築(6,523) 設備(3,690)は令和2年度へ繰越明許
	北木中学校教員住宅解体事業	13,827	解体工事 北木中学校教員住宅
	生涯学習事業	1,706	生涯学習フェスティバル、諸学級事業、たくましい笠岡っ子 スピーチコンテスト、「明るい家庭づくり」作文
	奨学金給与事業	1,421	藤井育英会(被交付者 高校生8人) 公益財団法人坂本音一育英会(被交付者 高校生9人、大学生1人)
	成人式	767	開催日 令和2年1月12日 開催場所 笠岡市民会館 参加者325人(市内256人、市外69人) 市内参加率59.5%
	貴閣講堂劣化調査	4,138	貴閣講堂の柱・屋根・壁・床等の劣化状況を把握する調査を実施
	放課後子ども教室	1,607	市内9箇所において、地域住民の参画により子どもたちが放課後を 安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行う
	土曜日教育支援	602	市内9箇所において、地域住民の参画により子どもたちが土曜日等を 安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行う
	地域学校協働本部事業	2,265	市内11地区(5中学校区、13小学校区)において、地域住民の参画 により学校教育の支援活動を行う

令和元年度の主な事業

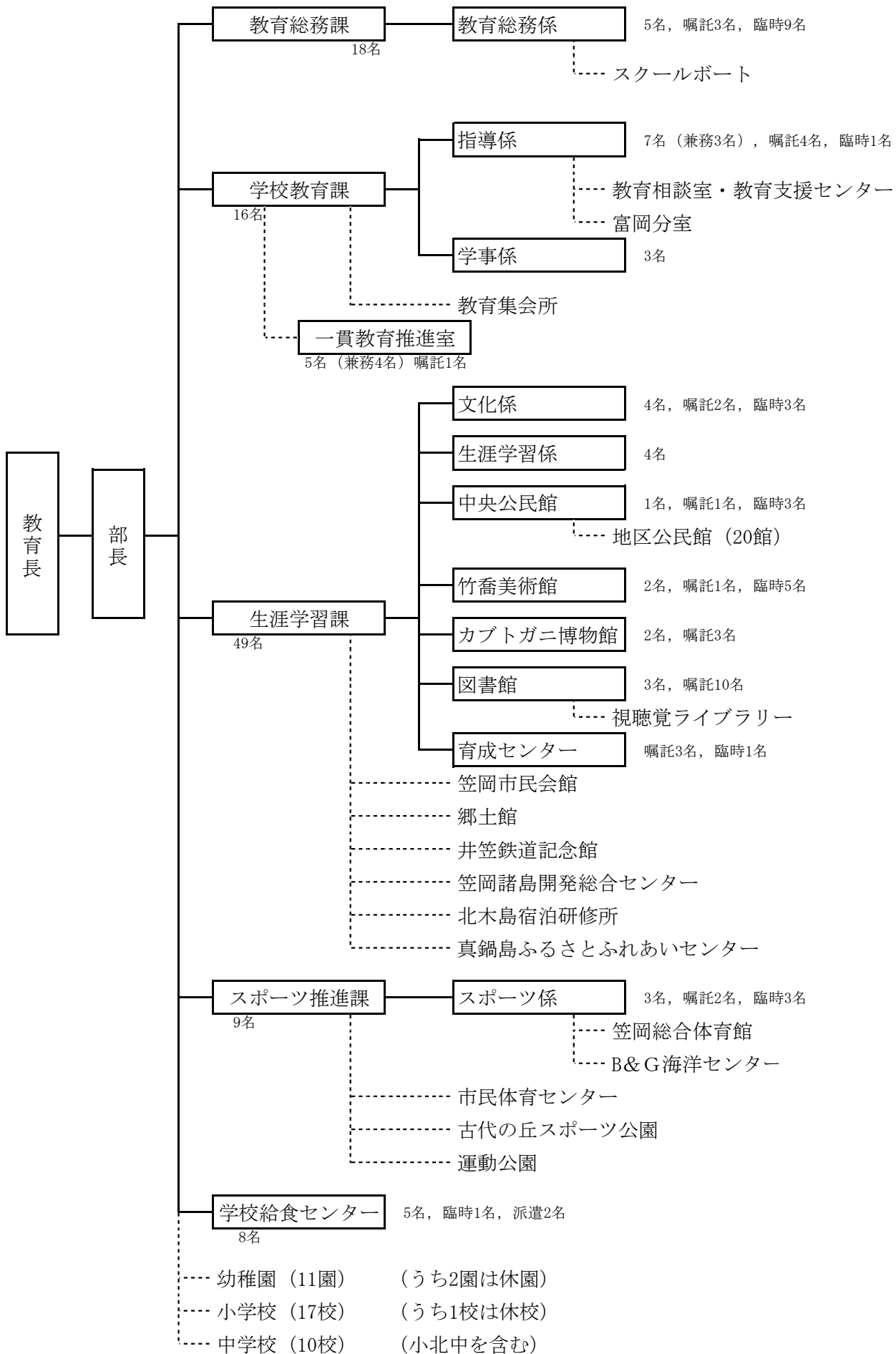
(単位：千円)

区 分	事務・事業名	決算額	備 考
	能・狂言体験学習事業	300	伝統文化であり、世界無形遺産に指定されている能・狂言に触れることで、関心や理解を深めるとともに、豊かな情操を育んだ（7校で実施）
	文化振興事業	1,098	名月観賞の夕べ、菊花展、文化祭、芸能祭、市写真展、さつき・新緑展、市美術展、児童生徒美術展（延べ来場者数 9,565人）
	木山捷平文学選奨	2,289	第15回木山捷平文学選奨
	文学者等顕彰事業	1,911	森田思軒顕彰講演会 茅原基治船長顕彰パネル設置 木山捷平生家維持管理事業（床張替、風呂場解体ほか）
	津雲貝塚調査事業	2,978	国史跡「津雲貝塚」発掘調査の成果等をまとめた総合調査報告書を刊行
	文化財保護事業補助金	1,324	市指定文化財「真鍋島の走り神輿」神輿3基の修繕
	北木島宿泊研修事業	5,194	北木島宿泊研修所の管理運営を指定管理によって運営し、島ならではの宿泊体験学習を提供 延べ利用者数1,864人（市内763人、市外1,101人）
	笠岡子どもフェスティバル	1,289	各種団体やサークルなどによる遊び、体験ブース、見学コーナー 学生や市民などがボランティアとして参加 開催日 平成31年4月29日 来場者数 約3,500人
	青少年育成地区活動推進事業	882	各地区において青少年健全育成に取り組む団体に対し補助金を交付し、活動を支援 市内各地区青少協11団体
	公民館活動助成事業	6,000	地区公民館20館 106事業
	公民館施設整備事業	17,345	空調改修（金浦、北木西）、掲示板設置（神島外）、雨漏り改修（飛島）、外壁防水塗装（吉田）、外壁改修（北木西）、プロジェクター（真鍋島）、冷蔵庫（金浦）、カラー複合機（今井）
	市民会館運営事業	34,508	一般財団法人笠岡市総合福祉事業団吸江社へ管理運営を委託
	市民会館施設長寿命化事業	26,456	管理棟2・3階トイレ改修、EV耐震化、ホール空調実施設計
	図書館運営事業	78,871	岡山県立大学との連携で、ピクトグラムによる館内案内を製作 図書館キャラクター「きやにゃともし」の活用 （図書館利用者カードのデザイン変更、四コママンガの作成等） ブックスタート事業、巡回文庫業務、子ども司書養成講座等の実施 来館者数104,017人 貸出冊数283,443冊 蔵書数186,389冊（一般書124,136冊、児童書62,253冊）
	図書館システム更新等事業	8,307	図書館システムの更新、図書館ホームページのリニューアル、フェリカの導入
	カプトガニ博物館運営事業	125,894	カプトガニ保護対策事業、大量飼育事業、30周年記念事業、特別展、タッチングプール、空調設備更新、施設改修工事 来館者数64,776人 特別展示「川のいきもの@笠岡」 特別陳列「造られたいきもの展」 公園内恐竜模型修繕、屋外トイレ洋式化、給水管漏水工事など
	郷土館運営事業	2,542	年間入館者数463人 企画展「稲富稲荷神社拝殿建立200年－彫刻と天井画の世界－」
	竹喬美術館運営事業	58,327	竹喬美術館展覧会事業 来館者数17,656人 特別陳列「蠢動－竹喬のまなざし－」 特別陳列「比庵さんが目指した万葉の世界」 特別展「生誕130年記念 小野竹喬のすべて」 特別陳列「女を描く－美醜を超えて－」 特別展「近代花鳥画の名手 菊池芳文」 特別陳列「京都の日本画－大正時代を中心にして－」 空調設備更新工事実施設計
	真鍋島ふるさとふれあいセンター運営事業	1,466	交流学習・文化活動等を行う場を提供
	笠岡諸島開発総合センター運営事業	2,697	交流学習・文化活動等を行う場を提供

令和元年度の主な事業

(単位：千円)

区 分	事務・事業名	決算額	備 考
	スポーツライフ推進事業	1,728	スポーツ教室, ニュースポーツ大会, スポーツ推進委員派遣
	スポーツ振興事業	4,294	べいふあーむ駅伝, カプトガニ駅伝等
	全国大会等出場者賞揚掲示板事業	1,202	世界・全国大会等に出場する選手を紹介する掲示板の作成及び掲示
	宝くじスポーツフェア事業	474	一般財団法人自治総合センターの宝くじスポーツフェア事業としてママさんバレーボール大会を開催
	ファミリーウォーキング大会	300	笠岡湾干拓地内において開催されるファミリーウォーキング大会の運営を支援
	体育施設管理事業	28,599	体育施設管理運営委託料 施設予約管理システム運用委託料
	海洋センター管理運営事業	10,602	島しょ部のスポーツ・レクリエーション施設として管理運営
	総合スポーツ公園体育施設管理運営事業	42,737	笠岡総合体育館, 笠岡陸上競技場, 多目的広場の管理運営
	岡山県笠岡陸上競技場備品購入事業	3,113	2種公認継続認定のために必要な用具や器具の整備
	笠岡総合体育館備品購入事業	888	企業からの指定寄附による備品の購入 (バスケットボールプザー, 折りたたみ椅子)
	学校給食事業	318,173	小学校16校, 中学校10校 (小北中含む)



※幼稚園に係る業務は就学前教育の一元化により、こども部こども育成課が所管しています。